地質学雑誌　第115巻　第9号（通巻1368号）付録　平成21年9月15日発行（毎月1回15日発行）

# 日本地質学会 News

Vol.12 No.9 September 2009

# 第１回 惑星地球 フォトコンテスト2009

## 趣　旨

惑星地球年プログラムは，地球と人類の持続可能な未来のためには地球科学の知識と技術が欠かせないことを広く知り，それを積極的に活用するために，国際地質科学連合（IUGS）とユネスコを中心に，多くの賛同者･後援者によって推進されています．私たちの惑星地球の豊かな自然を再発見するために、惑星地球をテーマにした写真を広く公募し、優秀な作品を表彰するとともに、作品集やパネルの展示を通じ、地球科学に関する理解を深め，地球科学の進歩と普及を図り、学術の振興と社会の発展に寄与・貢献することを期待するものです。

## 部　門

- ■　Ａ部門：惑星地球の美しい風景で芸術的価値が高い作品
- ■　Ｂ部門：惑星地球の教育・学術的価値が高い作品
  （200 字以内の説明文を付けること）
- ■　高校生部門：　学校生徒が撮影した作品

いずれかの部門を選択して投稿してください．

**こんな作品を大募集！**

＊地層や火山など活きた地球の姿を表す優れた作品
＊環境・防災・資源・など IYPE のテーマに沿う優れた作品
＊ジオパーク（注１）に関係する優れた作品
＊鉄道と地球の姿を組み合わせた「ジオ鉄」（注２）の優れた作品

## 賞および賞金

| | | |
|---|---|---|
| IYPE 日本名誉会長賞 | １点 | 賞金５万円 |
| 日本地質学会会長賞 | １点 | 賞金５万円 |
| 審査委員長特別賞 | １点 | 賞金５万円 |
| 優秀賞各部門 | 各１点 | 賞金３万円 |
| 入選 | 数点 | 賞金１万円 |

## 応　募

詳しくはウェブサイトをご覧下さい
http://photo.geosociety.jp

**締め切り 2009 年 11 月 30 日（月）**
郵送応募は同日必着のこと

## 主　催

planetearth® Earth Sciences for Society
国際惑星地球年日本

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893 日本地質学会
日本地質学会

## 応募要項

■応募作品
（１）応募作品は、他の出版媒体等に未発表で、他のコンテスト等に応募していない作品に限ります（個人のホームページや、授業・講演等の資料、コピー機による少部数の印刷物等で用いたことのある写真は未発表のものとして差し支えありません。また、他のコンテスト等で落選が確定した作品についての応募は差し支えありません）。
（２）応募作品には 200 字以内で，作品の説明を付けることができます．

■ 応募方法
（１）応募作品は応募者が撮影したものでなくてはいけません。１部門につき２作品までご応募いただけます。
（２）プリント作品を郵送する場合は，２Ｌか同等以上のサイズとします。プリントを応募される場合は，作品の裏面には、応募票（様式１）をセロハンテープで貼付してください。プリント作品の返却を希望する場合は、返却先を明記した着払い用宅配便伝票と返信用の封筒を同封し、一点ごとに「返却希望」と朱書きしてください。ただし、破損、汚損、紛失等による損害の補償は致しません。
（３）画像データを応募する場合は，作品は 500 万画素以上で，ただし画像データの１作品あたりのファイルサイズ:5MB 以内（大きい画像は 5MB 以内に圧縮）であること．画像データのファイル形式は JPEG のみです。なお組写真でのご応募は受け付けておりません。色のレタッチ、明度・彩度の補正は問いませんが、明らかに加工・編集を加えた写真は選考の対象にはなりません。入賞者には受賞決定後、印刷物または展覧会等のため、より解像度の高い画像データ・ネガ・ポジフィルムの提出をお願いすることがあります。ネガ･ポジフィルムは後日返却いたします。データを記録した CD-R 等のメディアは返却いたしません。

■審査
主催者より任命された審査員により、厳正な審査を行います。審査結果についてのお問い合わせはお受けできません。審査はＩＹＰＥ日本および日本地質学会推薦の選考委員会が実施します。デジタルデータでご応募頂いた作品は，ＰＣモニター上で一次審査され，選抜作品のみ事務局にて２Ｌサイズにプリントして二次審査が実施されます．入賞者には日本地質学会事務局からその旨通知します。

■ 表彰
賞の発表は，2010 年２月末に応募者本人に連絡するとともに，ホームページ上にて公表します．また，2010 年３月 27・28 日に行われる IYPE 日本のイベントにて，表彰・展示を行います．

■注意事項
応募作品に人物が含まれる場合は、応募についてその人物の同意を得てください。被写体の肖像権、著作権への法的整理をふくむ応募作品の内容に関する一切の責任は応募者にあるものとします。ご提供いただきました個人情報は，日本地質学会プライバシーポリシーに従って扱われます。

■その他
応募作品の著作権は応募者に属します。入賞作品は、主催者のホームページ、メールマガジン、広告、宣伝媒体等に掲載する場合があります。

（注１）ジオパークは地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。ユネスコの支援により、世界各国で推進されています。
（注２）ジオ鉄とは、「鉄道」を利用して沿線に広がる「地形・地質的要素（ジオ）」を楽しむ旅（ジオツアー）を表わした言葉です。

# 日本地質学会*News*

Vol.12 No.9 September 2009



The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６Ｆ
**編集委員長　坂口有人**
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp


planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

# *Contents*


**告示　一般社団法人日本地質学会2010年度代議員および役員選挙について** ……2
2010年度代議員および役員選挙実施要領
代議員選挙にかかわる，正副会長候補者の意向調査について
選挙の種別/選挙スケジュール/代議員立候補届け/監事立候補届け
一般社団法人日本地質学会選挙細則/選挙管理委員会規則

**2010年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について** ……11
一般社団法人日本地質学会各賞選考規則/各賞選考委員会規則

**一般社団法人日本地質学会の公益認定申請について** ……14
（一般社団法人日本地質学会理事会，法人化作業委員会）

案内 ……16
平成21年度　東濃地科学センター　地層科学研究　情報・意見交換会

公募 ……16
新潟大学教育研究院自然科学系教員公募/広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教員公募

各賞・募集 ……16
日本原子力研究開発機構平成22年度「先行基礎工学研究」募集

紹介 ……17
Tsunamiites- Features and Implications　志岐常正ほか編（立石雅昭）/文学を旅する地質学　蟹澤聡史著（鈴木尉元）

Island Arc日本語要旨（Vol.18　Issue 3） ……19
特集：Papers arising out of 22nd Himalaya-Karakorum-Tibet Workshop（HKT22）ほか

支部コーナー ……22
北海道支部：北海道地質百選シンポジウム「北海道の地質　魅力発見！」

CALENDAR ……22

院生コーナー ……23
熱の勉強会2009参加報告（正木裕香）

**日本地質学会会員名簿作成アンケートの実施について** ……24
名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更・登録カード

学会記事 ……26
（任）日本地質学会2009年度第３回理事会議事録

一般社団法人日本地質学会 ……27
（一社）日本地質学会2009年度第３回執行理事会議事録

訂正 ……27

岡山大会での忘れ物をお預かりしています ……27

「日本地方地質誌　６．中国地方」特別割引販売のお知らせ ……28

**表３：文献英文併記と図表・キャプションの英文化をお願いします**
**～編集に関わる規則の一本化および一部改訂にあたって～**


## 表紙紹介

### 熊本県天草維和島東海岸，上部白亜系姫野浦層群

写真　文　**清川昌一**（九州大学）

天草地域には連続性のよい砂岩泥岩互層が分布する．北東南西方向に軸をもつ褶曲や，第三系の赤崎層が不整合で重なるなど地質図作成などの地質学の基礎を学ぶ上でも非常に恵まれた地域で，毎年，多くの大学の実習が行われている．

## 事務局営業カレンダー

■ お休み　＊印は振替休日です

9月/September

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

10月/October

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5* | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

岡山大会：9/4-7（事務局不在）


印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

告　示

# 一般社団法人日本地質学会
# 2010年度代議員および役員選挙について

一般社団法人日本地質学会定款ならびに選挙規則・選挙細則に基づいて，法人として初めての代議員および役員（監事，理事）選挙を実施いたします．選挙規則類を掲載するとともに，選挙実施の要点について以下に記します．

なお，法人の代表である会長並びに副会長は，法人法に基づき代議員の中から選出された理事によって構成される理事会において，理事の中から選出します．ただし，理事会からの委託により，当選挙管理委員会が正・副会長への立候補の意思のある方について，代議員選挙と併せて会員の意向調査を実施いたします．このことについては，理事会からの案内（別掲）を合わせてご覧ください．

1．選挙管理委員会が実施する選挙は，正会員の直接選挙による代議員の選出と，その代議員の互選による理事の選出および代議員による監事の選出です．
2．選挙人および被選挙人は，一般社団法人日本地質学会の正会員（全個人会員）に限ります．正会員は，１人１個の選挙権があります．
3．今後，選挙は２年ごとに実施し，全代議員（社員）および全役員（監事，理事）を選出（改選）します．
4．代議員および役員の任期は２年，今回選出される方は，2010年４月（2010年度の総会の日）から2012年３月（2012年度の総会の日）までの任期になります．
5．代議員の選挙においては，全国区と地方支部区があります．地方支部区については，各自の所属している支部区についてのみ，立候補ならびに投票の権利があります．
6．立候補者数が定員を超えない場合は，無投票当選といたします．ただし，代議員地方支部区においては，地方支部区選出理事を選出しなければなりませんので，定数を超えない場合でも投票をします．

その他，選挙の概要については以下の実施要領をご覧ください．また，投票に関する事務的なことや投票の仕方などにつきましては，投票用紙送付の際にご連絡いたします．

2009年９月10日
日本地質学会選挙管理委員会　委員長　松田達生
委員　太田　亨・川上俊介・川村喜一郎・中島　礼

---

## 2010年度代議員および役員選挙実施要領

**1．代議員の選挙日程**（選挙人，被選挙人とも正会員）
立候補受付期間　10月13日（火）～11月12日（木）（必着）
選挙広報・投票用紙の発送　11月26日までに届くよう郵送します．
選挙活動期間　11月27日（金）～12月21日（月）
投票期間　11月30日（月）～１月９日（土）
*投票期間最終日までに投函してください．
開票日時　１月16日（土），９時より，学会事務所にて立会人のもと，選挙管理委員会が行う．
選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにWebサイト，メルマガ，News誌に掲載

**2．理事の選挙日程**（理事：選挙人，被選挙人とも代議員，監事：被選挙人は，会員および非会員，選挙人は代議員）
立候補受付期間　１月25日（月）～２月12日（金）（必着）
選挙広報・投票用紙の発送　２月18日（金）までに届くよう郵送します．
選挙活動期間　２月19日（金）～２月25日（木）
投票期間　２月22日（月）～３月８日（月）
*投票期間最終日までに投函してください．
開票日時　３月13日（土）予定
選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにWebサイト，メルマガ，News誌に掲載

**3．監事の選挙日程**（選挙人は代議員，被選挙人は，会員および非会員）
立候補受付期間　10月13日（火）～２月12日（金）（必着）
選挙広報・投票用紙の発送　２月18日（金）までに届くよう郵送します．
選挙活動期間　２月19日（金）～２月25日（木）
投票期間　２月22日（月）～３月８日（月）
開票日時　３月13日（土）予定
選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにWebサイト，メルマガ，News誌に掲載

**4．代議員の立候補**
1）代議員の定数は全国区100名・地方支部区100名，総数200名です．地方支部区は得票順，全国区は得票順および階層別定員充足数を考慮して選出します．
2）各地方支部区の定数は，2009年８月末の支部会員数により100名を比例配分しました．

| | | |
|---|---|---|
| 北海道地方区 | （５）名 | （北海道） |
| 東北地方区 | （６）名 | （青森，秋田，岩手，山形，宮城，福島） |
| 関東地方区 | （41）名 | （茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川） |
| 中部地方区 | （18）名 | （新潟，長野，山梨，静岡，富山， |

石川，福井，岐阜，愛知）
近畿地方区　（12）名（滋賀，奈良，京都，三重，大阪，和歌山，兵庫）
四国地方区　（ 4）名（徳島，香川，高知，愛媛）
西日本地方区　（14）名（岡山，広島，鳥取，島根，山口，福岡，佐賀，熊本，長崎，大分，宮崎，鹿児島，沖縄）

3）代議員地方支部区へ立候補する方は，登録住所の県別により該当する地方支部区に立候補してください．全国区にはどこから出ていただいてもかまいません．

**5．理事の立候補**

1）理事の選挙人および被選挙人は，当該選挙で選出された代議員です．

2）理事の定数は50名です．50名のうち7名は地方支部選出理事として，各地方支部区の最上位当選者を１名ずつ無投票で選出します．残り43名は全国区選出代議員の中から立候補していただき代議員による選挙を行い，得票順および階層別定員充足数を考慮して選出します．

**6．監事の立候補**

監事の定数は２名ですが，会員の立候補者から１名を選出いたします．

**7．立候補の届出について**

1）立候補締切日は以下のとおり，いずれも必着とします．
代議員　11月12日（木）
理事・監事　２月12日（金）

2）立候補届
代議員，理事，監事いずれも立候補届けは所定の書式（代議員，監事について別途掲載）により，選挙管理委員会に郵送またはE-mailで送付してください（持参不可）．書式は，Webサイトからダウンロードすることもできます．立候補は自薦および他薦のいずれも可としますが，他薦の場合は，候補者の承諾書を添付してください．
＜郵送の宛名＞
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル
一般社団法人日本地質学会選挙管理委員会
e-mail：選挙管理委員会＜main@geosociety.jp＞
件名：「選挙立候補届」

3）立候補届け受領書の発行
立候補届けを受け取りましたらE-mailにより立候補者に受領書を発行します（E-mailをご利用でない方には郵便はがきを出します）．

4）正・副会長に立候補する意思のある方はマニフェストを提出してください．
代議員立候補者で，代議員，理事と選出されたのち，正・副会長に立候補する意思のある方は，会員による意向調査の資料として，代議員立候補届に加えて，完全版下用マニフェストを作成し添付してください．

**＜マニフェストの作成について＞**

① Ａ４判１ページ（タテ形）とし，完全版下で提出してください．配布用はモノクロ印刷のみ，Webサイトにはカラーでの掲載もできます．
② 版下はモノクロとカラーの両方の提出が可能です．ただし，モノクロとカラーの違いによる表現の変化・変更は許容の範囲としますが，文言等の表記内容はモノクロ版，カラー版とも同一とし，変更は認めません．
③ 内容の構成（文字の形，大きさ，写真，図などの挿入）は自由です．ただし，学会の公式ロゴおよび出版物等は，マニフェストに使用しないでください．

以上

**会員各位**

## 代議員選挙にかかわる，正・副会長候補者の意向調査について

一般社団法人日本地質学会理事会

一般社団法人日本地質学会の2010年度代議員ならびに役員選挙について，選挙管理委員会による告示が本号に掲載されました．法人登録をしてからおおよそ１年を経過して，初めての選挙を実施し，来年度から地質学会の活動は，法人としての活動に全面的に移行することとなりました．会員各位におかれましては，百十余年にわたる長い歴史の中で，実質的に新たな組織としての１歩を踏み出す地質学会の運営に対し十分に関心をお持ちいただき，積極的にご参加とご協力をいただきますようお願い申しあげます．

さて，法人の代表理事であります会長の選出につきましては，理事会において理事の中から選出するということが，法律に定められています．本学会としましては，これまでの長い歴史と法人化を検討する中での会員の意向を踏まえ，会長および会長の補佐役である副会長の選出においては，会員の意向を諮ることができるよう，代議員選挙に付随することとして，選挙規則に盛り込みました．会員の意向が直接，選出につながるものではありませんが，理事会として正・副会長を選出する際の，重要な参考にさせていただくことといたしました．具体的には，定時に実施される選挙におきまして，全国区代議員（および理事）の立候補者の中で，正・副会長への立候補の意思を示した方には，会員に向けてのマニフェストを公表していただき，それによって候補者に対する会員の意向を調査するというものです．

なお，この意向調査については，選挙管理委員会が管理する代議員選挙とは手続きを異にするものではありますが，学会の代表者の選出にかかわって，全会員の意向を伺うということの性質上，その公正さを確保するためにも，選挙管理委員会の下で「意向調査」として実施いたします．つきましては，本号別掲の「選挙告示」にありますように，本意向調査を代議員選挙と同時に実施いたしますので，なにとぞよろしくご理解とご協力のほど，お願い申し上げます．

# 一般社団法人日本地質学会選挙

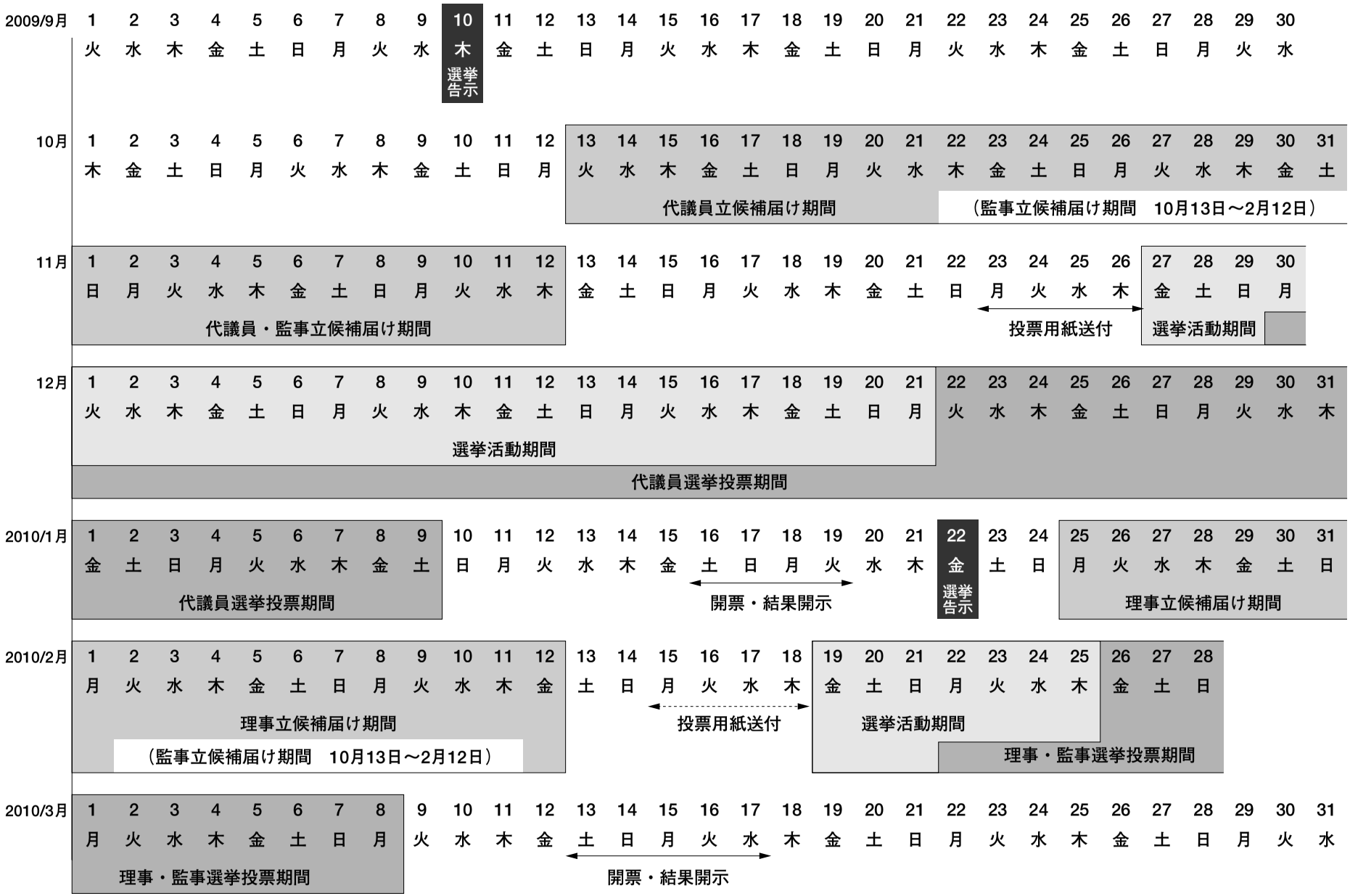
## Ⅰ．選挙管理委員会によって行われる選挙

| | 選挙 | 選出方法 | 定数 | 選挙人 | 被選挙人 | 階層指定の定数 | | 候補者が定数どおりか定数未満のとき |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 代議員選挙　地方区 | 投票 | 100 | 正会員 | 正会員 | なし、各地方支部区得票順 | | 理事選出の順位付けのため投票 |
| | 代議員選挙　全国区<br>定数合計　200名<br>＊【正・副会長候補者の意向投票】<br>予め立候補の意思表示をし、<br>マニフェストを提出した代議員<br>候補者 | 投票 | 100 | 正会員 | 正会員 | 大学（付属博物館）<br>小中高（教育センター）<br>官公庁（公安・独法・博物館）<br>会社（財・社法人）<br>院生（研究生）<br>上記指定以外で得票順 | 12<br>12<br>12<br>12<br>4<br>48 | 投票なし |
| 2 | 理事選挙 | 指定 | 7 | — | — | なし、各地方支部区１位得票代議員 | | — |
| | 定数合計　50名 | 投票 | 43 | 当選全代議員 | 全国区選出代議員<br>（正・副会長候補意思表明者も含まれる） | 大学（付属博物館）<br>小中高（教育センター）<br>官公庁（公安・独法・博物館）<br>会社（財・社法人）<br>院生（研究生）<br>得票順 | 6<br>6<br>6<br>6<br>3<br>16 | 投票なし |
| 3 | 監事選挙 | 投票 | 1 | 代議員 | 正会員 | なし | | 投票なし |
| | 定数合計　2名 | 指定 | 1 | 理事会の指名推薦 | 非会員 | なし | | — |

## Ⅱ．理事の互選によって行われる選挙

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 会長選挙<br>副会長選挙 | 承認又は<br>投票 | 1<br>2 | 当選理事全員 | 意思表明した理事 | なし | | 代議員・理事選挙の意向投票を尊重 |
| 2 | 執行理事選挙 | 投票 | 15 | 当選理事全員 | 会長・副会長選出以外の理事 | なし | | 投票なし |
| 3 | 理事会正・副議長 | 投票 | 2 | 当選理事全員 | 上記選出者以外の理事 | なし | | 投票なし |

## 選挙スケジュール


2009/9月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水
10 木 選挙告示
10月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土
代議員立候補届け期間
（監事立候補届け期間　10月13日～2月12日）
11月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月
代議員・監事立候補届け期間
投票用紙送付
選挙活動期間
12月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木
選挙活動期間
代議員選挙投票期間
2010/1月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日
代議員選挙投票期間
開票・結果開示
22 金 選挙告示
理事立候補届け期間
2010/2月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28
月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日
理事立候補届け期間
（監事立候補届け期間　10月13日～2月12日）
投票用紙送付
選挙活動期間
理事・監事選挙投票期間
2010/3月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水
理事・監事選挙投票期間
開票・結果開示

◎E-mail送付可，郵送の場合はA4判（タテ）の大きさでご提出下さい．記入枠は適宜広げてください．

# 一般社団法人日本地質学会　代議員立候補届け

※　全項目を必ず記入してください．　　提出日　　年　　月　　日

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 立候補者氏名 | | | | | E-mail　Address |
| 立候補の区分 | | 全 国 区 | | 地方支部区 | ＊全国区，地方支部区のどちらか一方を選び，左欄に○を記入して下さい． |
| 所属支部区：支部名 | 支部名： | | | | ＊地方支部区の方は，自分の所属支部を左欄に記入して下さい．（北海道　東北　関東　中部　近畿　四国　西日本） |
| 自薦・他薦の別 | | 自薦 | | 他薦 | ＊自薦，他薦いずれか一方の左欄に○を記入して下さい． |
| 他薦：推薦者氏名 | ＊他薦の場合のみ,推薦者氏名を記入して下さい． | | | | |
| 立候補者所属機関 | ＊所属先がない場合は「なし」としてください． | | | | |
| 立候補者所属階層 | 階層名： | | | | ＊該当する所属階層を左欄に記入して下さい．（大学　小中高　官公庁等　会社　大学院生　その他） |
| 立候補の抱負または推薦文（120文字以内）<br>＊推薦文の場合は推薦人名を文章の最後につけてください．それも含め全文字数120字以内で書いて下さい． | | | | | |

## 会長・副会長への立候補意思表示

※全国区代議員立候補者のうち，正・副会長に立候補する意思のある方は,下記に記入して，マニフェストを添付してください．マニフェストは，モノクロ版およびカラー版のいずれか，または両方を添付することができます．

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 立候補の意思 | | 会長 | | 副会長 | ＊立候補意思のあるどちらか一方の左欄に○を記入して下さい． |
| 添付マニフェスト | | モノクロ版 | | カラー版 | ＊添付するものの左欄に○を記入して下さい． |

選挙管理委員会　受付日　　月　　日

※他薦で立候補される方は推薦承諾書に自署・捺印してください．E-mail の場合はPDFでご提出下さい．この部分のみ別紙でも可．

## 候 補 者 推 薦 承 諾 書

私は，一般社団法人日本地質学会の代議員候補者となることを承諾いたします．

氏名（自署）　　㊞

選挙管理委員会　受付日　　月　　日

◎ E-mail送付可、郵送の場合はA4判（タテ）の大きさでご提出下さい．記入枠は適宜広げてください．

# 監事立候補届け

※ 全項目を必ず記入してください．　　提出日　　年　　月　　日

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 立候補者氏名 | | | | | | E-mail Address | |
| 自薦・他薦等の別 | | 自薦 | | 他薦 | | 理事会推薦 | ＊左記の該当するいずれかの左欄に〇を記入して下さい． |
| 所属機関名 | ＊所属先がない場合は「なし」としてください． | | | | | | |
| 立候補の抱負または推薦文（200文字以内）<br>＊推薦文の場合は推薦人名を文章の最後につけてください．それも含め全文字数200字以内で書いて下さい． | | | | | | | |

# 候 補 者 推 薦 承 諾 書

※他薦および理事会推薦で立候補される方は推薦承諾書に自署・捺印してください．E-mail の場合はPDFでご提出下さい（別紙提出も可）．

私は,一般社団法人日本地質学会の監事候補者となることを承諾いたします．

氏名（自署）　　㊞

## 一般社団法人日本地質学会選挙規則

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第14条にもとづいて本規則を定める．

（規則の変更）
第２条　この規則の変更は，理事会の議決によって行い，総会に報告し承認を求める．

（選挙の実施）
第３条　代議員ならびに役員の選出作業は，別途定める一般社団法人日本地質学会選挙細則（以下選挙細則という）に則り，選挙管理委員会が行う．

（代議員選挙）
第４条　代議員選挙は正会員による無記名投票とし，２年ごとに全定数を改選する．
２　代議員の選挙定員は，地方支部区100名，全国区100名からなるものとする．
３　各地方支部区の定員は，選挙告示１ヶ月前の各支部の正会員数に応じて比例配分する．定員確定後に会員の移動等のため届出所属が変わった場合でも，次期選挙までの地方支部区の定員割り当て数は変更しない．また，そのことにより実質減数となる地方支部区の定員補充は行わない．
４　代議員候補者は正会員とし，自薦および本人の承諾書を付帯する他薦とする．立候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した立候補届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．立候補届の提出にあたり，選挙管理委員会は全国区代議員候補者の中で会長・副会長立候補の意図のある正会員の意思表示を，別途定める方法により受け，代議員選挙活動期間開始前に全会員に開示することとする．
５　全国区選出代議員の選出にあたっては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
６　選挙管理委員会は，選挙細則に則り，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
７　選挙管理委員会の報告を受けた総会において代議員選挙結果は確定する．
８　当選後に地方支部区選出代議員の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該代議員の選出地方支部区が変更される．
９　代議員が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出代議員の補充に際しては次点者，全国区選出代議員の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．

（役員選挙）
第５条　役員選挙は理事および監事を選出するものとし，代議員による無記名投票により，２年ごとに全定数を改選する．
２　理事の選挙定員は50名，監事は２名とする．
３　理事の定員のうち，各代議員地方支部区から代議員選挙得票数上位１名を地方支部選出理事とする．
４　理事候補者はその年度に選出された全国区代議員とし，候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した候補者届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
５　監事候補者は，理事会が推薦する者と会員からの立候補者を対象とし，理事会および候補者は別途定める参考事項を記した候補者届けを，所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
６　当選理事の決定の際には，定員にいたる残りの選出数に対しては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
７　選挙管理委員会は，選挙細則に従って，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
８　選挙管理委員会の報告を受けた総会において役員選挙結果は確定する．
９　当選後に地方支部区選出理事の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該理事の選出地方支部区が変更される．
10　理事が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出理事の補充に際しては次点者，全国区選出理事の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．
11　監事のいずれかが任期中に何らかの理由で欠員となった際には，選挙による次点者を繰り上げ，次点者が存在しない場合には理事会が後任を推薦し，総会での承認を得る．

（無投票選挙の指定）
第６条　代議員の選挙にあたり，立候補者数が定数を越えない場合でも選挙を実施し，投票は行うものとする．
２　役員選挙にあたり，立候補者数が定数を越えない場合には，無投票当選とする．

（選挙実施細目）
第７条　定款ならびに本規則に定められたもの以外の，選挙の実施手続き等については，別途定める選挙細則および選挙管理委員会規約によるものとする．

附則
（発足時の代議員）
　2010年度選挙が実施されるまでの代議員には，任意団体日本地質学会の2008年度代議員があたるものとする．
（発効）
本規則は，2009年５月17日から施行する

付表

| 所属 | 備考 | 最低充足数全国区 | |
|---|---|---|---|
| | | 代議員 | 理事 |
| 大学 | 大学付属博物館を含む | 12 | 6 |
| 小中高 | 教育センター等を含む | 12 | 6 |
| 官公庁等 | 公団，行政法人，博物館等を含む | 12 | 6 |
| 会社 | 社団，財団，NPO法人等を含む | 12 | 6 |
| 大学院生 | 研究生を含む | 4 | 2 |

## 一般社団法人日本地質学会選挙細則

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会選挙規則（以下選挙規則という）第３条に則り，代議員ならびに役員選挙の実施手続きを本細則に定める．

（規則の変更）
第２条　この細則の変更は理事会において行い，総会に報告する．

（選挙管理委員会）
第３条　代議員ならびに役員の選挙は，定款，選挙規則，

本細則に基づき選挙管理委員会が行う．
２．選挙管理委員会は，選挙実施概要告示の２カ月以上前までに設置されなければならない．
３．選挙管理委員会は，別途定める選挙管理委員会規則に基づいて運営されるものとする．

（開票立会人および立ち会い）
第４条　代議員および役員選挙においては，開票立会人２名を置く．開票立会人は，任期中の役員および代議員，被選挙人を除いた正会員の中から，執行理事会が選出する．
２．開票立会人は選挙管理委員会の行う開票作業に，終始１名以上が立会わなければならない．開票立会人は当選者の決定を確認し，選挙管理委員会が作成する総会報告書に記名・捺印するものとする．
３．開票立会人は，開票作業を行ってはならない．開票ならびに票の効力判定を注意深く見守り，疑義が生じたときはただちに選挙管理委員長に申し出て，疑義の解消をはかる．
４．あらかじめ選挙管理委員会の許可を得た正会員は，開票に立ち会うことができるものとするが，開票作業を行ってはならない．疑義が生じたときはただちに開票立会人に申し出る．

（代議員選挙の告示）
第５条　選挙の実施概要は，立候補受け付け開始の１か月以上前に，日本地質学会News誌ならびにWEBサイト等を通じて，会員に告示しなければならない．また，必要に応じて予備的告示を行うものとする．
２．選挙管理委員会は告示に先立ち，当該年度の代議員および役員の選挙に関し，選挙スケジュール，その他必要事項の確認と決定を行い，当該選挙の実施概要として執行理事会に提示し，承認を受ける．

（代議員の立候補届および受理）
第６条　代議員に立候補する正会員は，所定の参考事項を記した立候補届を期日までに選挙管理委員会に提出しなければならない．
２．立候補届等は所定の書式を用い，郵送または持参，電磁的方法のいずれかによるものとする．
３．立候補届には１）全国区・地方区の別，２）自薦・他薦の別，３）立候補者氏名，４）所属先，５）所属階層，６）他薦の場合は推薦者氏名，７）立候補の抱負または推薦文，の参考事項を記すものとする．
４．他薦による立候補者の場合は，本人の承諾書を添付するものとする．
５．全国区の代議員立候補者のうち，会長・副会長の立候補の意図があるものは３項に加えてその意思表示を記すものとする．また，参考書類として所定の書式によるマニフェストを添付しなければならない．
６．立候補届の受付期限内であれば書類の差し替え，修正は随時できるものとする．

第７条　選挙管理委員会は立候補届の内容および添付書類を確認し，立候補者本人に受理書を発行する．届け出内容等に明らかな不備が認められる場合には，随時その確認と修正を求めることができるものとする．

（代議員立候補者名簿・参考書類の開示）
第８条　選挙管理委員会は速やかに立候補者名簿を作成し，地方区においての投票の有無を確定する．
２．立候補者名簿および参考書類は投票用紙とともに正会員に送付し，WEBサイト，News誌においても開示するものとする．

（代議員選挙の投票）
第９条　投票権は，正会員１名につき１個とし，投票は所定の投票用紙と封筒を用い定められた期間内に，郵送により行うものとする．

（選挙活動）
第10条　代議員立候補者ならびに選挙管理委員以外の正会員は，定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる．選挙活動は公正，適切な範囲で行い，倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない．
２．行き過ぎた選挙活動や選挙活動によるトラブルがあったと認められる場合，または会員からの訴えがあった場合は，選挙管理委員会が真偽の確認および調査を行い，理事会に報告して解決を図る．

（代議員選挙の開票および結果の開示）
第11条　選挙管理委員会は投票期間終了後，開票立会人の立ち会いのもとで速やかに開票を行い，選挙規則に則って当選者の決定を行うものとする．
２．開票結果を総会報告書として作成し，立候補者にも通知する．WEBサイト，News誌においても速やかに開示するものとする．

（役員選挙の告示と開示）
第12条　選挙管理委員会は，代議員選挙の結果に基づく理事と監事の選挙の実施概要を，当選した全代議員に告示し，WEBサイトにおいても開示するものとする．

（理事の立候補届）
第13条　理事の選挙は，理事の定数50名から選挙規則第５条第３項に定める地方支部選出理事を除いた数を，全国区の代議員から選出するものとする．
２．立候補届は所定の書式を用い，１）自薦・他薦の別，２）立候補者氏名，３）所属先，４）他薦の場合は推薦者氏名，５）立候補の抱負または推薦文を記し，電磁的方法により期日までに選挙管理員会に提出しなければならない．
３．他薦による立候補者の場合は，本人の承諾書を添付するものとする．

（監事の立候補届）
第14条　監事の選挙は，選挙規則第５条第５項に従い，当選代議員以外の正会員から１名，理事会推薦者（会員外）から１名を選出するものとする．
２．立候補届は所定の書式を用い，１）自薦・他薦の別，２）立候補者氏名，３）所属先，４）推薦者氏名，６）立候補の抱負または推薦文を記し，電磁的方法により期日までに選挙管理員会に提出しなければならない．
３．理事会推薦候補者および他薦の場合は，本人の承諾書を添付するものとする．

（役員選挙立候補届の受理と立候補者名簿の開示）
第15条　選挙管理委員会は立候補届の内容を確認し，立候補者本人に受理書を発行する．届け出内容に明らかな不備が認められる場合には，随時その確認と修正を求めることができるものとする．

第16条　選挙管理委員会は立候補受け付け終了後，速やかに立候補者名簿を作成し投票用紙とともに，当選した全代

議員に送付する．立候補者名簿はWebサイト，News誌においても開示するものとする．

（役員選挙の投票および選挙活動）
第17条　投票権は，代議員１名につき１個とし，投票は所定の投票用紙と封筒を用い，定められた期間内に郵送により行うものとする．

第18条　役員立候補者，代議員ならびに選挙管理委員以外の正会員は，定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる．選挙活動は公正，適切な範囲で行い，倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない．
２．行き過ぎた選挙活動や選挙活動によるトラブルがあったと認められる場合，または会員からの訴えがあった場合は，選挙管理委員会が真偽の確認および調査を行い，理事会に報告して解決を図る．

（役員選挙の開票および結果の開示）
第19条　選挙管理委員会は投票期間終了後，開票立会人の立ち会いのもとで速やかに開票を行い，選挙規則に則って当選者の決定を行うものとする．
２．開票結果を総会報告書として作成し，立候補者にも通知する．Webサイト，News誌においても速やかに開示するものとする．

（選挙に対する異議申し立て）
第20条　代議員および役員選挙の結果に対する，会員からの異議申し立ては，選挙管理委員会に対して行う．
２．選挙管理委員会は異議申し立て内容を確認，調査し，申立人との間で解決を図る．申立人が納得しない場合は，当該案件を総会の報告事項に加え，総会の決議に従うものとする．

（選挙結果の承認）
第21条　選挙管理委員会は，選挙結果を総会に報告し，代議員および役員選任の承認を受けなければならない．

（代議員および役員の欠員）
第22条　何らかの理由により，代議員および役員の任期中に欠員が生じた場合でも，選挙規則第５条第９号，10号，11号に基づき補充選挙は行わないものとする．

（附　則）
　本細則は2009年６月30日から施行する

## 一般社団法人日本地質学会
## 選挙管理委員会規則

（目的・業務）
第１条　選挙管理委員会は，一般社団法人日本地質学会定款14条および第32条に定められた代議員ならび役員を選出するため，事務手続きの一切を選挙規則および選挙細則に基づいて公明正大に執り行う．

第２条　選挙管理委員会は，代議員および役員選挙の結果をWebサイトならびにNews誌で開示するとともに，総会に報告する．

（委員会の構成）
第３条　選挙管理委員は会長，副会長，理事，監事および代議員を除く正会員のなかから理事会が選出し，会長が委嘱する５名の委員により構成される．
２．委員長ならびに委員長代理は委員の互選によって選出され，委員長は選挙管理委員会を代表する．

（委員の任期）
第４条　委員の任期は総会への報告完了の日までとし，再任はさまたげない．
２．選挙管理委員は任期中，投票を除いて，代議員および役員選挙への立候補および立候補者の推薦，選挙活動をおこなうことができない．

（選管補助要員）
第５条　選挙管理委員長は，事務局職員を選挙管理委員会の補助要員に任命し，業務の一部を委嘱することができる．委嘱期間は，９月10日～３月15日とする．
２．補助要員は委員長の指示により，選挙業務（立候補受付，立候補者確認・案内，WebサイトやNews誌への掲示作業，投票用紙・広報等の印刷，郵送，投票の受取など）に関して，選挙管理委員会をサポートし，円滑に選挙が遂行されるよう協力する．なお，選挙活動に類する行為は厳に慎むものとする．

（附　則）
　本規則は2009年６月30日から施行する．

以上

# 2010年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について

日本地質学会は毎年その事業のひとつとして，研究の援助・奨励および研究業績の表彰を行っています（定款第３条）．具体的には，運営規則第16条および各賞選考規約（本号別途掲載）に，表彰の種別や選考の手続きを定めています．これらにしたがい，下記の賞の自薦,他薦による候補者を募集いたします．ご応募いただいた候補者を，各賞選考委員会（委員は理事会の互選と職責により選出）が選考し，理事会で候補者を決定し，総会の承認を経て表彰を行います．

日本地質学会功労賞・日本地質学会表彰以外は，会員（正会員・名誉会員）であればどなたでも推薦できます．論文賞・研究奨励賞・小藤賞の対象論文リストについては，地質学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）をご覧いただくか，または，地質学会事務局までお問い合わせください．

下記の応募要項をご参照の上，各賞選考委員会（学会事務局）あてご応募下さい．期日厳守にて，たくさんのご応募をお待ちしております．なお，ご応募いただいた場合には，必ず受け取りのお返事をお出ししますのでご確認ください．

**応募の締め切りは各賞とも，2009年12月25日（金）必着です．**
**所定の様式による,とあるものは事務局にご請求下さい．**

送付先:
郵送，e-mail送信いずれも可，なるべく電子ファイルでの提出をお願いします．

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６Ｆ　一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会
TEL：03-5823-1150，e-mail：main@geosociety.jp

**１．日本地質学会賞**
授賞対象：地質学に関する優秀な業績をおさめた本会正会員もしくは名誉会員，またはこれらの会員を代表とするグループ．
応募方法：正会員，支部，および理事会による推薦（自薦も可），所定の様式による。

**２．日本地質学会国際賞**
授賞対象：地質学に関する画期的な貢献があり，加えて日本列島周辺域の研究や日本の地質研究者との共同研究などを通じた日本の地質学の発展に関する顕著な功績があった非会員
応募方法：正会員，支部，および理事会が推薦．所定の様式による．

**３．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞**
授賞対象：地質学に関して優れた業績を上げた，2009年９月末日で満37歳以下の会員
（研究テーマによって小澤儀明賞・柵山雅則賞のいずれかを授与）
応募方法：正会員，および理事会による推薦（自薦も可），所定の様式による。

**４．日本地質学会研究奨励賞**
授賞対象：2007年10月から2009年９月までの過去2年間に地質学雑誌およびIsland Arcに優れた論文を発表した，2009年９月末日で満35才未満の正会員．筆頭著者であれば共著でもよい．
応募方法：推薦理由書添付（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

**５．日本地質学会論文賞**
授賞対象：
１）2006年10月から2009年９月までの過去３年間に「地質学雑誌」発表された優れた論文
２）2006年４号から2009年３号（９月）までの過去３年間に「Island Arc」に発表された筆頭著者が本会会員による優れた論文
応募方法：推薦理由書添付（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

**６．日本地質学会小藤賞**
授賞対象：2008年10月から2009年９月までの間に地質学雑誌に発表された短報で，重要な発見または独創的な発想を含むもの．
応募方法：推薦理由書（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

**７．日本地質学会功労賞**
授賞対象：長年にわたり地質学の発展に貢献のあった本会会員もしくは非会員．またはこれらを代表するグループ．
応募方法：正会員・名誉会員，支部，または理事会が推薦．所定の様式による．

**８．日本地質学会表彰**
授賞対象：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった非会員の個人，団体および法人．
応募方法：正会員・名誉会員，支部，または理事会が推薦．所定の様式による．

注）日本地質学会賞・研究奨励賞・小澤儀明賞・柵山雅則賞の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないことが要件となります．

2009年９月3日

一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会
委員長　中川光弘
委員：卜部厚志・北里　洋・高木秀雄・高橋正樹
滝田良基・堀　利栄・村山雅史・吉川敏之・渡辺真人

（関連資料）

## 一般社団法人日本地質学会各賞選考規則

（目的）

1．本規則は，一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）運営規則第16条3項に基づき地質学会の各賞選考に関する手続きを定める．

（選考）

2．各賞の選考は，理事会のもとにおかれる各賞選考委員会が行う．各賞選考委員会については別途定める．

（各賞の受賞対象および応募資格等）

3．日本地質学会賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募資格：正会員，名誉会員，ならびに前記のものを代表とするグループ．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　2）応募方法：正会員，支部および理事会による推薦，自薦も可とする．所定の様式による．

4．日本地質学会国際賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募資格：非会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　2）応募方法：正会員，支部，および理事会による推薦．所定の様式による．
　3）国際賞の授与は毎年度1名以下とする．

5．日本地質学会Island Arc賞の授賞対象は次のとおりとする．
　1）応募開始年の3年前と2年前にIsland Arc誌に発表された論文．

6．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募資格：応募開始年の9月末日で満37歳以下の正会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　2）応募方法：正会員および理事会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
　3）賞の名称は，受賞する研究のテーマによって各賞選考委員会が定める．

7．日本地質学会論文賞の受賞対象は次のとおりとする．
　1）応募開始年9月までの過去3年間に地質学雑誌に発表された論文．
　2）応募開始年9月までの過去3年間にIsland Arcに発表された，筆頭者が地質学会正会員による論文．
　3）応募方法：会員および名誉会員による推薦．400字程度の推薦文を添付すること．

8．日本地質学会小藤賞の受賞対象は次のとおりとする．
　1）応募開始年9月までの過去1年間に地質学雑誌に発表された短報．
　2）応募方法：正会員および名誉会員による推薦．400字程度の推薦文を添付すること．

9．日本地質学会研究奨励賞の受賞対象および資格者は次のとおりとする．
　1）応募開始年9月までの過去2年間に地質学雑誌およびIsland Arcに発表された論文の著者．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　2）応募開始年9月末日で満35才未満の正会員．筆頭著者であれば共著でもよい．
　3）応募方法：正会員および名誉会員による推薦．400字程度の推薦文を添付すること．

10．日本地質学会優秀ポスター賞の受賞候補者の応募および選考に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募対象：各賞選考委員会が定める講演会において発表されたポスター講演の発表者またはこれらを代表するグループ．

11．日本地質学会功労賞の受賞候補者の応募に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募対象：地質学会正会員および非会員，またはこれらを代表するグループ
　2）応募方法：正会員，名誉会員，支部，または理事会による推薦，所定の様式による

12．日本地質学会表彰の応募に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募対象：非会員の個人，団体または機関．
　2）応募方法：正会員，名誉会員，支部，または理事会による推薦，所定の様式による．

（推薦の委嘱）

13．理事会は，日本地質学会賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の候補者の推薦を行うにあたり，過去10年間程度の日本地質学会賞受賞者，日本学術会議会員，日本学術会議連携会員，および各専門部会長等の有識者に推薦候補者に関する情報を求め，それを参考にすることができる．
　1）有識者による理事会への参考情報は，対象者の主要な研究業績に関する説明のみとする．
　2）理事会からの候補者とすることが決まった場合には，対象者に当該候補者となることの承諾を求めたうえで，所定の書式の作成は候補者本人が行い，理事会が選考委員会に提出する．日本地質学会国際賞にあっては，理事会が決めた対応責任者により同様の手続きを行う．

（応募に関する告示）

14．各賞の応募に関する告示は，応募締め切り期日の3カ月前までに，News誌，Webサイト等で行う．

（選考結果の記録と報告）

15．各賞選考委員会は，選考過程と選考結果について文書で理事会に報告する．

附則

(1) 本規則の変更は理事会の議決による．
(2) 本規則は，2009年9月3日から施行する．

## 一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会規則

（目的）

1．一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）各賞選考規則第2項に基づき，本規則を定める．

（委員の構成および選出）

2．各賞選考委員会（以下選考委員会という）は，理事会が推薦する10名の委員と前・現地質学雑誌編集委員長および前・現副委員長，Island Arc前・現編集委員長で構成する．
　1）理事会推薦委員の10名は，専門を考慮して理事の互選により選出し，委員長はこの委員間の互選とする．
　2）理事会推薦委員の任期は2年とし，1年ごとに半数改選とする．

（選考検討委員会等の設置）

3．選考委員会は，日本地質学会賞，日本地質学会国際賞，

日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞ならびに日本地質学会Island Arc 賞の選考に関しては，選考委員会のもとに随時，選考検討委員会を設置して諮問することができる．

4．日本地質学会賞，日本地質学会国際賞ならびに日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考を行う選考検討委員会は，前・現地質学会長，過去３年間の日本地質学会賞受賞者，前・現地質学雑誌編集委員長，前・現Island Arc編集委員長および執行理事会が推薦する若干名の委員など10名程度で構成し，委員長は委員間の互選とする．

5．日本地質学会Island Arc賞の選考検討委員会は，現Island Arc編集委員長とEditorial Advisory Boardのメンバー若干名によって構成し，委員長は委員間の互選とする．

6．選考委員会は，優秀ポスター賞の選考に関して，随時，優秀ポスター賞選考委員を任命し，その意見を選考の参考にすることができる．

（利益相反）

7．選考委員会委員ならびに選考検討委員会委員が受賞候補対象者となった場合，または委員と候補者の関係が深い（親族，共同研究者，研究指導者など）と判断される場合は，地質学会利益相反防止規則に基づいて，該当する賞の選考には一切関与しないこととする．これによって減数した委員の補充は行わない．

附則

(1) 本規則の変更は理事会の議決による．

(2) 本規則は，2009年９月３日から施行する．

# 一般社団法人日本地質学会の公益認定申請について

一般社団法人日本地質学会理事会
法人化作業委員会
2009年９月３日

## 1．はじめに

昨年12月に一般社団法人日本地質学会が設立され，今年度は法人への移行期間として，一般社団法人と従来の任意団体の二つの地質学会が並存しています．法人化作業委員会では，任意団体日本地質学会の事業・会員・財産などについて，一般社団法人日本地質学会が公益認定されてから一気に法人側に移すという方針で公益認定の準備作業を進めて参りました．しかしながら本年４月の任意団体評議員会や法人理事会，５月の法人総会で審議していただいたように，公益認定について不明な点が多いこと，二つの団体の並存期間が長引くことは運営上の面からも好ましくないとの判断から，理事会としてはできるだけ早期に任意団体事業活動の主体を法人側に移すこととし，今年度末には任意団体日本地質学会を解散し，全ての事業・会員・財産を一般社団法人日本地質学会に移す方向で準備を進めているところです．

この間，執行理事会は，法人化作業委員会の報告などから，地質学会の最近の公益認定申請に対する考え方や一般的な公益認定の状況のなども含めて，会員の皆様に現状のご説明をしておく必要があると考えました．昨年発足した公益法人の制度設計が，認定基準や会計制度などで，現状では学協会になじまない問題を多く抱えていることが学術会議などによって指摘されているからです．また，昨年12月の法律施行から現在まで，公益認定受けた法人は全国で40法人であることからも推測できるように，特に学協会においては公益認定申請に消極的であるとの情報も聞こえております．このような中で執行理事会としては，地質学会の法人化が様々な議論を経て2002年の新潟大会で決定に至る経緯と法人化＝公益法人化であることを再確認しておりますが，新法律では法人制度自体が大きく変わりました．2002年当時，法人化が必要とされ，提示されていた事項は，現行の一般社団法人でも十分に実現しうるものとなったと思われます．以下，それらについてもう少し詳しく述べたいと思います．

## 2．新制度の下での法人：公益法人と一般法人の違い

従来の制度では，主務官庁の裁量により公益性の有無が判断され，設立が許可され，税制優遇が受けられるという，法人の設立と公益性の判断が一体となった仕組みでした．しかし，主務官庁の裁量が大きすぎることや公益性の判断基準が不明確であることなどの批判があり，新制度では，法人の設立と公益性の判断を分離させる仕組みとなりました．具体的には，一般社団法人・一般財団法人については，法律に順じて登記の手続きを行えば，基本的にその設立が認められます．これらのうち希望する法人に対して，民間有識者による公益認定等委員会によって，公益性の判断を行い，行政庁が公益社団法人・公益財団法人の認定を行うこととなりました．主務官庁の自由裁量による認定を行っていた従来の制度とは異なり，新制度では，基準に基づく統一的な判断が行われることとなったのです．

新制度による公益法人と一般法人の違いについては，別記末尾の資料の比較書類をご覧ください．公益法人の主たるメリットは，税制の優遇や社会的信用などが上げられています．しかし，税制優遇については，一般社団法人・財団法人であっても，非営利性が徹底された法人や，共益的活動を目的とする法人であれば，寄付者に対する優遇措置を除けばほぼ同様な優遇を受けることができ，大きな差はないと考えられます．地質学会は非営利性，共益的活動，どちらの条件も満たしています．また，社会的信用については，行政側としての扱いの違いはないとされていますので，法人の活動次第，内容によるものと考えられます．

一方で，公益社団法人・公益財団法人としての認可基準は不確実なことも多く，学術大会の開催や雑誌の発行というような，学術団体にとって中心的な事業が公益事業として無条件に認定されるのかといったことも定かではありません．また，認定を受けた場合には，会計処理を中心に運営にかなりの制限を受け，公益認定の基準や条件を遵守しているかどうかを毎年継続的に指導監督されるとともに，遵守できなかった場合，最悪は認定取消しもあります．このように公益法人の認定や認定後の維持には，事務作業量やコストの面でかなりの負担がかかることが見込まれています．

## 3．法人化の議論の原点に立ち返って

法人化の方向付けを確定した2002年の法人化調査検討委員会の報告では，法人化の必要性について，以下の７点にまとめています．

**１）社会的認知度，社会的地位が高まる**
**２）学会の目的である「地質学及び関連科学の進歩と普及をはかる」ため必要**
**３）研究企画関連の目的を果たすため**
**４）非営利の出版活動，公的機関からの委託研究やプロジェクト応募などを行なうため**
**５）社会貢献について責任を持って行なうため**
**６）JABEEやCPDに取り組むため**
**７）法人化によってより民主的な運営**

上記の事項は，確かに法人化（旧法人）によって実現可能となるものでしたが，以下に見るようにほとんどが現行の一般社団法人でも実現できるものであることがわかります．

**１）社会的認知度，社会的地位が高まる．**
→公益法人という看板にどのくらいの価値があるかはまだよくわかりません．行政官庁は，公益法人が格上であるという扱いはしません．認知度については，学会の公益認定を受けているか否かではなく，活動自体にかかっていると考えられます．

**２）学会の目的である「地質学及び関連科学の進歩と普及をはかる」ため必要**
→公益法人か否かで変わるものではありません．報告でも述べているように，問題の発掘・提言・実態の解明から解決までを責任を持って行うことが重要になります．

**３）研究企画関連の目的を果たすため**
→報告では最先端の研究開発や新技術の講習，学生の教育などに関する研究企画の実現にとって法人化が必要としていますが，公益認定を受けなくても一般法人で実施可能です．

**4）非営利の出版活動，公的機関からの委託研究やプロジェクト応募などを行なうため**

→出版やプロジェクトの応募などは，法人格を持っていれば基本的に可能です．

**5）社会貢献について責任を持って行なうため**

→報告では，防災や理科（地学）教育を通じての貢献を述べていますが，これも公益法人でなくても実現可能です．

**6）JABEEやCPDに取り組むため**

→当時の法人化のある意味で目玉とされています．JABEE（日本技術者教育認定機構）やCPD（技術者継続教育）については，公益法人でなくても実現可能です．ただし，教員免許更新講習の開催については今年度は従来型の法人（公益）でないと提案できないなど，一部で制限がかかるかもしれません．

**7）法人化によってより民主的な運営**

→運営の透明性の確保などは，基本的には公益法人であれ，一般法人であれ変わりません．公益法人の方は行政官庁への報告の義務があるなど，行政からの監督指導が入りますが，一般社団法人は法令に基づいて運営している限り指導は入りません．

## 4. 公益法人化は急がずに状況を見て

以上述べてきましたように，一般社団法人であっても公益社団法人とほぼ同じように当初法人化の目的とした事業は行うことが可能であり，一般社団法人によって地質学会は，より社会に開いた窓をもつことができたものと思います．

新制度の公益法人は，その本質として学術団体を想定したものではないために，学術会議は，認定基準などをめぐって，学術団体にとってはいろいろ問題点があるとしており，学術団体に特化した新たな法人制度の仕組み（学術法人）の提案も検討しているとのことです．このような状況の中で，地質学会として，何が何でも公益認定実現を目指すことが果たして得策なのかどうか，判断に悩むところではあります．いずれにしましても今後は，法人としての運営体制の強化と，事業内容の充実と公益性をより高めることは必須のことであり，公益法人実現の近道でもあると思います．一般社団法人日本地質学会として学術活動をしつつ，今後の公益認定状況の変化と他の学術団体の動向も見極め，公益認定申請の機会を計ってゆきたいと考えます．以上，会員の皆様に公益認定を取り巻く現状をご説明し，地質学会の今後の対応についてのご理解をいただきたいと考えるところです．

以上

### 資料：公益法人と一般法人の比較

＊太枠は有利，アミカケは運営面での制限およびやや不利な点．

| | 公益社団法人 | 一般社団法人 |
|---|---|---|
| 認定要件 | 一般法人となった上で，高い認定基準にたいする要件整備が必要． | 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の要件具備のみ． |
| 社会的信用性 | 公益社団法人等名称の使用により社会的認識は得られる．→募金活動等の獲得が有利． | 公益法人に比して，公益実施において認知は低いが一定の公益が前提となっており，社会の認知は得られる． |
| 行政庁の監督 | 公益性判定のため，毎年度行政庁の監督（定期報告，審査等）を受ける． | 監督なし（公益目的支出計画終了後）法人の自由な意思で活動できる． |
| 法人税 | 原則非課税<br>公益目的事業以外の収益事業のみ課税（一般法人に同じ）． | 非営利型法人であれば公益目的事業は非課税，収益事業のみ課税（地質学会は非営利型法人）課税30%（800万以下22%）． |
| 寄附金の免税制度 | 特定公益増進法人として優遇． | なし． |
| 利子等に係る源泉所得税 | 非課税． | 課税． |
| 収支相償 | 公益目的事業による収入額が，当該事業に必要な適正な費用を償う額を超えないこと． | 制限なし． |
| 公益目的事業 | 公益事業が主体で，50%以上であること． | 公益事業　制限なし． |
| 遊休財産保有の制限 | 遊休財産額が，１年分の公益目的事業費相当額を超えないこと． | 制限なし，収益事業取得に相当するものは課税． |
| 法人格の取り消しなど | 公益認定基準を満たさず認定取消の場合，１月以内に公益取得資産の残額を他の同等の公益的団体等に贈与しなければならない． | 取り消しなし． |
| その他 | 設立時の事務的労力が大，認定後は公益認定基準維持のための事務負担がかかる． | |

## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

### 平成21年度　東濃地科学センター　地層科学研究　情報・意見交換会

東濃地科学センターでは，当センターが実施する地層科学研究を適正かつ効率的に進めていくため，研究開発の状況や成果，さらに今後の研究開発の方向性について大学，研究機関，企業の研究者・技術者等に広く紹介し，情報・意見交換を行うことを目的として，「平成21年度　東濃地科学センター　地層科学研究　情報・意見交換会」を下記の通り開催します．

日時：平成21年10月27日（火）12：30-17：00
場所：瑞浪市地域交流センター「ときわ」
（岐阜県瑞浪市）（定員：約150名）

詳細は，（http://www.jaea.go.jp/04/tono/index.htm）をご覧下さい．

**●瑞浪超深地層研究所 深度300m水平坑道見学会**

日時：平成21年10月28日（水）10：00-12：00
場所：瑞浪超深地層研究所（定員：約40名）

※いずれも，申込者多数の場合は，先着順とさせていただきます．ご了承下さい．
※入場無料（事前の申込が必要です）
申込先
日本原子力研究開発機構　地層処分研究開発部門　結晶質岩工学技術開発グループ
「平成21年度　東濃地科学センター　地層科学研究　情報・意見交換会」事務局
E-mail：tono-koukankai2009@jaea.go.jp
http://www.jaea.go.jp/04/tono/index.htm

## 公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

応募

### 新潟大学教育研究院自然科学系教員公募

所属：新潟大学教育研究院自然科学系　自然構造科学系列
担当学部・研究科：理学部・大学院自然科学研究科
担当予定科目
学部：構造地質学分野の専門科目，野外実習に関する科目，地学に関する基礎科目など
大学院：構造地質学分野の専門科目など
職種・人員：教授１名
採用予定日：平成22年４月１日
職務内容・条件
(1) 理学部及び大学院自然科学研究科の地質科学分野の教育目標と教育内容を理解し，野外地質調査を研究手法とする構造地質学分野の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと．/(2) 新潟大学コア・ステーション地球環境・地球物質研究センターの研究プロジェクトを積極的に推進すること．/(3) 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている教育プログラムに参画すること．
応募資格
(1) 博士の学位を有すること．/(2) 上記職務内容に関して優れた教育研究業績を有し，地質科学分野の教員と協調して教育研究を担える能力と熱意があること．/(3) 野外地質調査に関する研究教育実績があり，野外実習の指導ができること．
応募書類（各１部）
(1) 履歴書（連絡先として電話番号と電子メールアドレスを明記のこと）/(2) 著書，学術論文（学位論文，レフェリー付きの原著論文，総説に区分）及びその他の論文（レフェリーなしの原著論文，国際会議発表論文など）を分けた研究業績のリスト．なお，著者名，論文名，雑誌名，巻，最初と最後のページ，発表年（西暦）について記載すること．/(3) レフェリー付きの原著論文の別刷あるいはコピー．/(4) これまでの教育研究概要と採用された場合の教育研究の抱負を2000字程度にまとめた文書．/(5) 研究助成金の受領状況（代表者，分担者の区別を明記すること），特許，受賞，社会的活動状況をまとめた文書．/(6) 応募者について意見を聞くことのできる方２名の氏名，連絡先（勤務先，電話番号，電子メールアドレス）．
応募の締切：**平成21年10月26日（月）必着**
提出書類の送付及び問合せ先
(1) 送付先
〒950-2181　新潟市西区五十嵐２の町8050番地
新潟大学自然科学系総務課学系庶務係
（封筒の表に「教員応募書類（地質科学分野）在中」と朱書きし，簡易書留で送付のこと．なお，応募書類は，返却しませんので，ご了承ください．）
(2) 問合せ先
〒950-2181　新潟市西区五十嵐２の町8050番地
新潟大学理学部地質科学科
学科長　松岡　篤
電話　025-262-6376（直通）
E-mail : matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp

### 広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教員公募

１．職種および人員：教授２名
２．専門分野：本専攻の中期計画の目標「地球惑星進化素過程の解明と地球環境の将来像の予測」に沿い，地球惑星システムにおける地球惑星進化学，地球ダイナミクス，地球環境学に関連した分野
３．応募資格等：
(1) 博士の学位を有すること
(2) 本専攻の現研究グループと協調して意欲的に研究にあたり，専攻の発展に大きく貢献しうること
(3) 学部および大学院の授業を担当し，学部生・大学院生の教育と研究指導に意欲的であること
４．応募締切：**平成21年11月６日（金）必着**
５．着任予定時期：平成22年４月１日以降
６．提出書類：
(1) 履歴書/(2) 研究業績リスト（必ず，①査読有り原著論文，②査読無し原著論文，③総説（review），④著書，⑤その他，に区分して記述すること）/(3) 主要な論文の別刷（またはコピー）10編以内/(4) これまでの研究概要と着任後の研究計画（Ａ４用紙1-2枚程度）/(5) 地球惑星科学教育に対する抱負（Ａ４用紙1-2枚程度）/(6) 研究費等外部資金獲得の実績（過去10年間程度）/(7) 応募についてご意見をいただける方（２名程度）とその連絡先
(注１) 提出書類のうち，(3) 以外はすべてＡ４用紙を使用すること
(注２) 封筒に「教授応募書類在中」と朱書し，簡易書留で郵送すること
(注３) 応募書類は原則として返却しない
７．送付先および問い合わせ先
〒739-8526　東広島市鏡山1-3-1
広島大学大学院理学研究科
地球惑星システム学専攻
教授専攻委員会委員長　日高　洋
電話　082-424-7464　FAX　082-424-0735
e-mail : hidaka@hiroshima-u.ac.jp
詳しくは，http://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp/~info/COM/koubo-20090901.pdf

## 各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

### 日本原子力研究開発機構平成22年度「先行基礎工学研究」募集

核燃料サイクルを技術的に確立するため，日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という．）が取り組む，研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究に関する研究協力課題を募集します．詳細は原子力機構のホームページをご覧ください．

募集研究協力課題件数　10件程度（政府予算

の成立を前提としており，場合によっては件数の変更があります.）

研究分野　高速増殖炉開発及びそれに関連する核燃料サイクル技術開発，高レベル放射性廃棄物処分研究開発，放射線安全研究分野等で原子力機構が取り組む研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究

協力形態　共同研究及び研究生の受け入れ

研究予算　１研究協力課題あたり，年間最大で270万円以下

応募資格　研究実施の代表者は，国内の大学等に所属する教員または同等の研究経歴をもつ者（ただし，既に原子力機構の先行基礎工学研究協力制度に研究実施の代表者として応募し採用されている者を除く.）

研究開始　2010年４月１日（予定：ただし，契約締結後）

研究期間　１事業年度とします．ただし，毎年度に所要の評価を行い，研究期間の更新は，最大２回まで可能とします.

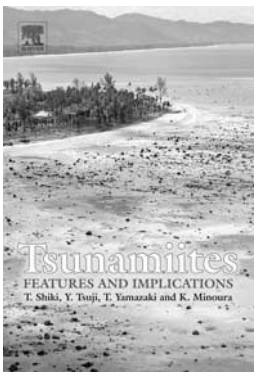
応募締切　**2009年11月16日（月）必着**

問い合せ先　原子力機構
産学連携推進部研究協力課
亀田，田沼，斉藤
電話　029-284-3419，3482，3483
FAX　029-282-6808
E-mail　sangaku.daigaku@jaea.go.jp
ホームページ　http://www.jaea.go.jp/

## 紹　介

### Tsunamiites- Features and Implications（ツナミアイト ーその特徴と解説）

**志岐常正・都司嘉宣・山崎貞治・箕浦幸治　編**




エルゼビア，2008年刊，
B5変形版ハードブック，432ページ，
定価約US＄165，ISBN-10 : 0444515526，
ISBN-13 : 978-0444515520

評者が津波堆積物という概念に初めて接したのは，本書編著者の山崎・志岐らによる1989年の知多半島に分布する中新統師崎層群中の巨礫を含む礫岩・砂岩相の堆積過程に関する論文であった．本書を読むと，相前後して，世界的にも地震や津波に起因する堆積物に対する関心が高まり，日本から発信したTsunamiiteと言う科学用語が広く定着していることが伺える．以降，地震国日本では，歴史地震による堆積物も含めて，津波堆積物に関する調査・研究が着実に進められ，世界をリードしてきた．時を同じくして，6500万年前の白亜紀／第三紀境界における生物大量絶滅を引き起こした隕石の衝突仮説を検証するメキシコ湾・カリブ海周辺の巨大津波の痕跡に関する研究が世界の耳目を集めて進められた．さらに，22万６千人の死者行方不明者を出した2004年末のスマトラ沖地震によるインド洋大津波は，あらためて津波に関する調査・研究の防災上の重要性を世界に知らしめたのである．

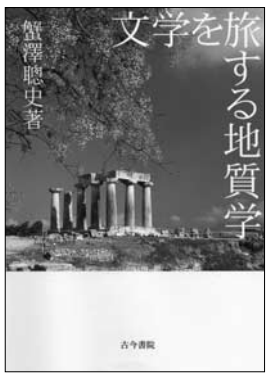
本書は津波堆積物に関する第一線の10カ国，37名の研究者による包括的著作である．全体を通して良く構成され，津波の水理学とともに，津波堆積物を暴浪や潮汐堆積物と識別する堆積地質的にみた特徴，その調査手段・方法が記述され，きわめて実践的な書となっている．具体的事例として，先に述べた白亜紀／第三紀境界の隕石衝突による巨大津波，2004年のインド洋大津波に関する成果をも含めて，1993年北海道南西沖，1992年ニカラグア地震に伴い沿岸に遡上した津波の堆積物，完新世に繰り返した地震を記録する湾堆積物，浅海から深海に及ぶ津波堆積物，火山活動や海底地すべりに伴う津波堆積物が扱われている．また，巻末には2005年までの津波堆積物に関係する430を超す文献リストがとりまとめられている．

本書は堆積地質分野を志す若い学徒・研究者はもとより，何より地震に随伴する津波防災について精度の高いハザードマップ作成を求められる応用地質学関係者に，座右の書の一つとして，推薦したい．

**（立石雅昭）**

### 文学を旅する地質学

**蟹澤聡史　著**




古今書院，2007年９月26日発行，A5判，
175ページ，定価3,000円（税別），
ISBN978-4-7722-7101-1

小説や詩などの文学作品を読む際，その舞台となる地域の地形や地質についての知識があり，とくに一度訪ねたことのあるところを舞台にした作品についてはひときわ思い入れ深く読むことができるであろう．本書は，スタインベック，ゲーテ，宮沢賢治，ノヴァーリス，魯迅，大岡昇平，ラーゲルレーフ，イプセンら，さらに漢詩，ギリシャ神話などの文学作品の舞台を訪ね，その背景を分析して作品を解説してくれる本である．

第１章では，スタインベックの「怒りの葡萄」が取り上げられる．北米南部オクラホマから西部のベイカースフィールドへのトム・ジョード一家の古自動車による放浪的旅行が描かれる作品であるが，背景には旧約聖書の「出エジプト記」があり，主人公ジョードには旧約聖書のモーゼが重ねられているという．

その途中の物すごい砂嵐が印象的に描かれる．この砂嵐は，北米中部に拡がる大平原の氷河時代の風成堆積物のレスによるもので，砂嵐はトラクターによる大規模農業により土壌がむき出しになったことによるとこの本の

著者は指摘する．

次いで上記自動車旅行に沿うリオグランデリフト，コロラド高原，ロッキー山脈，ベーズンアンドレンジの地質や地質構造運動について専門的な解説がある．

第２章ではゲーテの作品がとりあげられる．ゲーテは，若いころから地質や鉱物に興味を持ち，アルプスの研究で知られるソシュールや水成説の創始者ヴェルナーに教えを請うたりした．27才でワイマール公国の枢密顧問官に就任，最初の仕事がイルメナウ鉱山の再開調査で，この調査を通じて鉱山研究を本格的に始め，自然の語る言葉を聞き取ることに至上の喜びを感じたという．

ゲーテの作品では「ファウスト」，「イタリア紀行」，「ウイルヘルム・マイスターの遍歴時代」が取り上げられている．「イタリア紀行」では旅行中に観察した地層や岩石についての記述が頻繁に見られ，またヴェスヴィオ火山の活動については体を張って観察をした様子が記されている．花崗岩については，水成論の立場から原始海洋に最初に沈澱して形成されたもので，全ての地質体の基盤をなしているとの考えが述べられている．なお火成論と水成論に関する議論が「遍歴時代」や「ファウスト」で議論されていることは広く知られていることであろう．

第３章では宮沢賢治とノヴァーリスの作品が取り上げられる．賢治はノヴァーリスよりも120年ほど後の人であるが，地質学をおさめて生活の糧とし，それぞれ妹と婚約者を失い，若くして亡くなったせいもあってか，彼らの童話とメルヘンはよく似ているという．

賢治の作品としては詩集「春と修羅」中の作品が取り上げられ，地質や鉱物が多く記述されている点が指摘されている．細かいところにまでよく目を配り，それらが北上山地や阿武隈山地などの地形や地質，さらに鉱物や岩石の産状といかによく対応し，賢治がいかに正確にそれらを把握していたかを教えてくれる．

ノヴァーリスでは「青い花」が取り上げられる．本書はゲーテの「ウイルヘルム・マイスター」の向こうを張って書かれた若者のアウグスブルグまでの旅物語である．この中でウエルナーをたたえる話がでてき，大地は太古の世界の記念碑であると表現され，鉱山学校で学んだ鉱脈，黄金，鉱物などの記述がでてくる．

ノヴァーリスやゲーテの活動の舞台であるザクセン地方が古くからの鉱山業の舞台であり，ルネサンスの黎明期に活躍したアグリコラが，鉱山学，鉱物学，地質学を集大成した百科全書的な「デレメタリカ」をこの地で執筆したことが記されている．

第４章は漢詩の世界である．詩は内モンゴル，シルクロード，桂林，西域などを読んだ白居易，王維，李白，陶淵明，杜甫らのよく知られた作品を取り上げ，地形や地質的背景を説明してくれる．

第５章では魯迅の地質論文が取り上げられる．魯迅は来日前に地質学を学び，すでに「中国地質略論」なる本格的な論文を執筆していたという．来日して仙台医学専門学校で学んだことは，「藤野先生」などの作品で知られているところであろう．その後1906年に顧浪とともに「中国鉱産志」を出版している．これには「中国鉱産全図」が付図として付けられている．これらの作品から，魯迅が黎明期の日本の地質学者による成果を多数引用し，日本の事情に詳しかったことを筆者は指摘している．

第６章では大岡昇平の「俘虜記」，「野火」，「レイテ戦記」が取り上げられる．これらの作品で，大岡が地形や地質について具体的に細かい記述をし，自らの戦争体験をもとに重厚な戦記文学に仕上げたことが記されている．次いで「武蔵野夫人」が取り上げられる．ここでは武蔵野台地の地形，地質，さらに地形の形成過程までが当時の学問的成果に基づいて詳細に描かれていることが指摘されている．大岡は，ゲーテ，フンボルト，ダンネマンらの影響を受けたが，とくに地震現象と火山の活動を同一の原因によるものとするフンボルトの地質観に感化されたという．

第７章は北欧文学で，スウェーデンのラーゲルレーフによる「ニルスの不思議な旅」とノルウエーのイプセンによる「ペールギュント」が取り上げられる．前者は小人に変えられた主人公のニルスがガチョウの背に乗って旅をし，スウェーデンの歴史，地理，自然を理解させるように工夫された子供向けの作品で，本書では代表的な地質や鉱床と関連の深いところが紹介されている．

イプセンの「ペールギュント」は大ぼら吹きで喧嘩好き，世界のあちこちを放浪して歩き，彼に思いを寄せて故郷で待っていたソルヴェイグの許にもどり，静かに息を引き取るという物語で，グリーグの組曲としてもよく知られている．

近代岩石学に大きな貢献をしたゼーダーホルム，エスコラ，ブレッガー，ゴールドシュミット，バートらが北欧出身であり，日本へも輸出されている彼らの命名になる北欧特有の岩石について説明している．

第８章では後世の歴史や文化に大きな影響を与えたギリシャ神話が取り上げられる．ここでは先ず大洋（ocean），深成岩（plutonic rock），火山（volcano），テチス海（Tethys sea）などの地質学用語がギリシャの神々の名に由来するものであることが紹介されている．次いでギリシャの地質とその形成過程がプレートテクトニクスによって説明される．

これら各章は，2003年から2006年まで「地質ニュース」に掲載されたもので，本書はそれらをまとめたものである．地質家として知っておくべき歴史的な多くの重要な記述があり，また文学作品の舞台を訪ね，その背景を分析して解説してくれている好著である．広く読まれることを期待したい．また著者には，続編の執筆をお願いしたい．

**（鈴木尉元）**

---


## ☆リーフレットシリーズ１・２・３　好評発売中！！

１）大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―
200円（非会員300円）

２）大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions
200円（非会員300円）

３）大地をめぐる水―水環境と地質環境―
300円（非会員400円）

Ａ２版裏表カラー印刷，ハンディタイプでポスターにもなります．教材としてもご活用いただけます．ご希望の方はFAXまたはe-mailで学会事務局までお申し込み下さい．小額の場合切手送付でも可．

FAX　03-5823-1156　e-mail：main@geosociety.jp

Islands Arcは，年４回発行されます．最新号のVol. 18 Issue 3が2009年９月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://www. blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

## Vol. 18 Issue 3（September）

## 特集号：Papers arising out of 22nd Himalaya-Karakorum-Tibet Workshop（HKT22）

Guest editors: Jonathan Aitchson and Simon Wallis

**1. Sediment sequences and paleosols in the Kyichu Valley, southern Tibet（China）, indicating Late Quaternary environmental changes.**

*Knut Kaiser, Zhongping Lai, Birgit Schneider, Werner H.Schoch, Xuhui shen, Georg Miehe and Helmut Brückner*

**中国，南部チベットKyichu Valleyにみられる堆積シーケンスと古土壌が示す後期第四紀における環境変化**

チベット高原は環境変化に非常に敏感であり，その環境変化は中央アジアおよびその周辺域の環境にも影響を与える．したがって，本地域における環境変化に関する知見は重要である．Kyichu Valley（ラサ川）およびその支流は容易にアクセス可能な地域であるにも関わらず，南部チベットにおける後期第四紀の地形変化はほとんど知られていない．そこで，本地域の環境変化を明らかにするために，Kyichu Valleyの中流および下流域の12セクションで，堆積学的・古土壌学的・年代学的（AMS$^{14}$C年代およびルミネッセンス年代）・古植物学的検討を行った．標高3600～4000mでは氷河の痕跡は見出されず，これはKyichu Valleyは最終間氷期以来，氷河に覆われたことはなかったということを意味している．本地域はテクトニックに活動的であり，古い河川谷が沖積層に覆われるため，aggradationalな堆積体が形成されている．このため，氾濫原上に河川や湖沼に特有の堆積構造がみられない．後期第四紀に，Kyichu Valleyの河口域は湖沼となったが，それは本谷が合流するYarlung Zhangbo Valleyに形成されたダム湖の一部であった．本谷の両岸では，最終氷期最盛期前には黄土が，最終氷期最盛期前およびその後には風成砂が主に堆積した．最終間氷期，最終氷期，完新世の古土壌がみられることより，土壌の形成時の環境は温暖～冷涼かつ湿潤～亜乾燥であったと思われる．崩積堆積物の年代は，Kyichu Valleyの両岸斜面が広範に無植生となったのは，主に後期更新世の浸食とそれに引き続く完新世の二次的な浸食によるものであることを示している．また，古植物学的検討により，本地域では後期完新世に，森林から草木や低木の散在する草原へと環境が変化したことが判明した．森林の消滅や浸食の進行といった後期完新世の環境変化の少なくとも一部は人間活動によって促進され，地域的な気候の乾燥化と冷涼化を増進したと推定される．

Key words: colluvial, eolian, fluvial, lacustrine, Lhasa River

**2. Anisotropy of magnetic susceptibility and petrofabric studies in the Garhwal synform, Outer Lesser Himalaya: Evidence of pop-up klippen.**

*Upasana Devrani and Ashok K. Dubey*

**レッサーヒマラヤ外帯のガーワル向斜構造における構造岩石学及び帯磁率の異方性解析から推定されるポップアップクリッペ群の存在**

レッサーヒマラヤ外帯西部に位置するガーワル向斜構造域における，野外地質学的観察及び岩石学的記載と帯磁率異方性解析は，同地域の形成史を理解するために有用である．帯磁率の主軸は短い空間スケールにおける大きな変化を示し，これは重複変形の存在，また正断層運動に適した応力場の影響を示唆する．向斜構造の軸から離れた翼領域では，岩石は低度緑色片岩相までの変成作用を被っている．一方，褶曲軸部に近づくにつれて変成度は緑泥石－黒雲母帯まで上昇する．変成度が異なる領域の境界には衝上断層が存在し，大規模なポップアップクリッペ群構造として説明できる．

Key words: fault reactivation, Himalayan seismicity, neotectonic stress, strain, superimposed deformation

**3. Provenance and thermal history of the Bayan Har Group in the western-central Songpan-Ganzi-Bayan Har terrane: implications for tectonic evolution of the northern Tibetan Plateau**

*Guo-Can Wang, Robert P. Wintsch, John I. Garver, Mary Roden-Tice, She-Fa Chen, Ke-Xin Zhang, Qi-Xiang Lin, Yun-Hai Zhu, Shu-Yuan Xiang and De-Wei Li*

**西部～中部Songpan-Ganzi-Bayan HarテレーンにおけるバヤンHar層群の起原及び熱史：北部チベット高原のテクトニックな発達の解釈**

北部チベット高原に分布するSongpan-Ganzi-Bayan Harテレーンには，三畳紀のタービダイトが卓越する．三畳紀Bayan Har層群タービダイト中の砕屑性ジルコンのU-Pb年代は，400-500Ma, 900-1000Ma, 2400-2500Maにピークをもつ．これらの結果は，北方のEast Kunlun, Altyn, Qaidam, Qilian, Alaxa地域の先三畳紀の基盤岩の最近公表されたU-Pbジルコン年代とよく一致し，Bayan Har層群の原岩にこれらの岩石が含まれることを示唆している．このことは，Bayan Har 層群の石質アレナイトと北方のEast Kunlunテレーンの三畳紀前～中期層の砂岩との組成上の類似性からも支持される．石炭紀～二畳紀中期のメランジュ層とその上に載る後期二畳紀あるいは三畳紀の地層との間の露出状況の良い傾斜不整合の露頭は，二畳紀中期と二畳紀後期の間に広域的な変形作用が起こったことを示している．この変形作用は，QiangtangテレーンとNorth China Plateの間に起こった比較的穏やかな衝突，および古テチス海の閉塞の結果であるかもしれない．Bayan Har層群のタービダイトは，再びひらいた海盆の陸棚環境で堆積した．Bayan Har層群の砕屑性のジルコンを用いたフィッション・トラック年代は，堆積前および堆積後の年代を示し，飛跡が熱的に修復される温度（250-300℃）に達しなかったことを示唆している．Uの低濃集によって定義される282-292Maのピーク年代もまた北方の花こう岩の給源を反映しているように思われる．南部地域の豊富な火山岩片をもつ二つの石質アルコースから得られた自形のジルコンは，およそ237Maのピーク年代を与え，おそらく最も古い堆積年代を記録している．卓越する堆積後の170-185Maのピーク年代は，ジュラ紀初期に最高

温度に達したことを示唆している．いくつかの試料には，およそ140Maのより新しい熱事件（thermal event），すなわち最も不安定なジルコンにのみ影響を与えるような短時間の熱事件をあらわしているように思われる．

Key words: Bayan Har Group turbidites, detrital zircon fission-track age dating, detrital zircon U-Pb age dating, northern Tibetan Plateau, provenance, tectonic evolution, thermal history

**4. Origin of the Gangdise（Transhimalaya）Permian arc in southern Tibet: Stratigraphic and volcanic geochemical constraints**

*Quan-Ru Geng, Zhi-Ming Sun, Gui-Tang Pan, Di-Cheng Zhu and Li-Quan Wang*

**南部チベット，二畳紀Gangdise（Transhimalaya）島弧の起源：層位学的および火山岩の地球化学的制約**

南部チベットGangdise テレーンの中生代および新生代火山岩は，新テチス海の沈み込みによって生じたと考えられてきた．しかし，後期古生代の火山岩およびそのテクトニックセッティングはほとんど研究されていない．我々は，中部Gangdiseテレーンに位置する，断層で周囲と画された東西方向に伸張した隆起帯中にみられるペルム系の火山岩・堆積岩シーケンスに関する層位学的・地球化学的検討を行った．本地域の堆積岩はプラットフォーム性の炭酸塩岩と陸源性砕屑岩より構成されており，これは北部ゴンドワナ一帯に浅海性堆積盆が広がっていることを意味する．また，ペルム系堆積岩からは，当時，海退もしくは隆起があり，地域的に河川が形成されたことが判読される．火成活動には，玄武岩の噴出とそれより後の珪長質マグマの噴出という２つのステージが認められる．前者はMaizhokunggar（Tangjia）およびLhunzhubに露出するソレアイト質玄武岩溶岩によって代表され，その年代は前期～中期ペルム紀である．下部ペルム系玄武岩は相対的にMgOに富み（4.58～12.19%），中部ペルム系玄武岩は$Al_2O_3$含有量が高い（11.75～21.22%）．両時代の玄武岩とも，LIL元素および軽希土類元素に富み，顕著なNbとTbの負のアノマリーを示す．全希土類含有量および軽希土類元素／重希土類元素比は，前期ペルム紀から中期ペルム紀にかけて増加した．Sr，Nd，Pbに関しては初生同位体比に変動が認められ，これは，スラブ由来の流体による交代作用あるいはマグマの進化過程における同化作用および分別結晶作用に特徴的な，地殻とマントルの反応に起因するものと考えられる．これらの層位学的および地球化学的データは，Gangdiseテレーンに残されている中生代の島弧の形成前に，古生代に古テチス海の南方への沈み込みによる島弧の形成があったとする仮説を支持する．

Key words: Gangdise, geochemistry, island arc, Paleotethys, Permian, stratigraphy, Tibet, volcanic rocks

**5. Apatite fission track constraints on the Neogene tectono-thermal history of Nimu area, southern Gangdese terrane, Tibet Plateau**

*Wanming Yuan, Jun Deng, Qiugen Zheng, Jinquan Dong, Zengkuan Bao, Paul R. Eizenhoefer, Xiaotong Xu and Zhixin Huang*

**チベット高原，南ガンディステレーンに位置するニム地域におけるアパタイトフィッショントラック解析からの新第三紀熱・テクトニック履歴への制約**

南ガンディステレーンに位置するニム地域の新生代の火山性地層から採取された岩石試料５個のアパタイトフィッショントラック解析は単純な年代分布を示す．最古・最新の中心年代（central age）は6.8±0.6Maと9.7±1.2Maである．

最長・最短トラック長は14.2±2.3mmと12.9±1.7mmであり，トラック長分布は単一の熱イベントで形成される単一のピークを示す．本研究で新しく記載された年代は，9-5Maに起きた水平圧縮を伴うテクトニックイベントに起因するチベット北部盆地における高速堆積時期とほぼ一致する．トラック長モデリングから３つの異なる冷却ステージを定義できる．第１ステージ（12-8 Ma）は比較的安定した時期であり，温度は120-110℃であり，冷却はあったとしてもかなり限られているので，当時の地形は起伏が少なかったと推定できる．第２ステージ（8-2Ma）は速い冷却を伴い，温度は～110℃から地表付近に相当する～15℃まで下がった．このステージは，現在のガンディス山脈でみられる地形の起伏をつくりだしたヒマラヤ造山帯における衝突のfar-field effectに関係づけることができる．この時期の平均上昇速度は1.41-0.95mm/a であり，標高は～5900mまで達したと推定される．最後の第３ステージは鮮新世以降の地表付近での熱履歴を示す．

Key words: cooling-uplifting, fission track, Gangdese terrane, tectonics, thermal history

## （一般論文）

**1. Formation of chaotic rock units during primary accretion processes: Examples from the Miura－Boso accretionary complex, central Japan**

*Yuzuru Yamamoto, Manami Nidaira, Yasufumi Ohta and Yujiro Ogawa*

**付加過程最初期の乱堆積物の形成：三浦房総付加体を例として**

山本由弦，仁平麻奈美，大田恭史，小川勇二郎

付加体上部に発達する乱堆積物は，付加前，付加中，付加直後の詳細なテクトニクス情報を記録している．上部中新統の三浦房総付加体の詳細な検討を行い，３つのタイプの乱堆積物を見出した．砂もしくは礫層ブロックと泥質岩マトリックスで構成される乱堆積物（タイプ３）は，伊豆弧上での三崎層・西岬層の堆積直後に起こった重力崩壊に伴うスランプによって形成された．これらの運動方向から示された斜面の姿勢は，はじめほぼ水平であった海底面が，北西方向に傾動し，最終的には逆の南東方向の傾動へと変化したことが明らかになった．北西側への傾動・地すべりは，付加直前に海底面が陸側へ傾動したことを示し，南東へのそれは，堆積物が変形前線（Deformation front）通過後に，断層運動によって海溝側へと傾動が変化したことを示している．マトリックスが砂もしくは礫主体に構成されている乱堆積物（タイプ１，タイプ２）は，付加中および付加後に起こった，巨大地震による砂層の液状化および貫入によって形成された．

これら乱堆積物は，造構運動による斜面の傾動や古地震イベントといった，付加過程初期における表層付近の変動を知る上で，非常に有用である．

Key words: accretionary complex, Boso, liquefaction, mélange, Miura, slumping

**2. Foraminiferal evidence of submarine sediment transport and deposition by backwash during the 2004 Indian Ocean tsunami**

*Daisuke Sugawara, Koji Minoura, Naoki Nemoto, Shinji Tsukawaki, Kazuhisa Goto and Fumihiko Imamura*

**有孔虫データに基づいた2004年インド洋大津波による海底堆積作用の解明**

菅原大助，箕浦幸治，根本直樹，塚脇真二，後藤和久，今村文彦

2004年インド洋大津波により生じた海底下の堆積作用を明らかにするため，タイ南西部沿岸域において津波前後で採取した堆積物試料を用いて微古生物学的分析を行った．分析に供した試料は，津波前の1998年に水深６～15mの３地点，津波後の2005年と2006年に水深4.5～30mの10地点から採取した．試料から検出した有孔虫殻について種・属の同定を行い，それらの産出頻度を分析した結果，底生有孔虫の分布パターンが津波後に海側へ移動していたことが認められた．また，津波後の前浜～沖浜の堆積物からは，潮間帯を生育域とする膠着質有孔虫が検出された．これらのことは，津波の引き波により前浜～沿岸域の堆積物が海側へ運搬されたことを示している．一方，沖浜を生育域とする浮遊性および底生有孔虫の分布パターンに関しては，陸側への移動は殆ど認められなかった．本海域では，沖浜の海底において押し波による陸側への堆積物の運搬は生じなかったと思われる．本研究の結果，および既往の関連研究のレビューから，海底における津波の堆積作用について次のような解釈が導かれた．（１）津波襲来の際，引き波により大量の海浜物質が堆積物流となって海域へ運搬される．（２）従って，過去の津波の痕跡は沖浜の堆積場において異地性の物質の集積として識別されうる．（３）底生有孔虫の群集変化は痕跡の識別規準として有力であると考えられる．

Key words: backwash, foraminifer, sediment flow, 2004 Indian Ocean tsunami, 2004 Sumatra-Andaman earthquake

**3. Occurrence of Alaskan-type mafic-ultramafic intrusions in the North Qilian Mountains, northwest China: Evidence of Cambrian arc magmatism on the Qilian Block**

*Chien-Yuan Tseng, Guo-Chao Zuo, Huai-Jen Yang, Houng-Yi Yang, Kuo-An Tung, Dun-Yi Liu and Han-Quan Wu*

**中国北西部,北Qilian山地におけるアラスカ型苦鉄質-超苦鉄質貫入岩の産状：Qilian Blockにおけるカンブリア紀の島弧火成作用の証拠**

中国北西部，北Qilian山地において，Zhamashi苦鉄質-超苦鉄質貫入岩の野外での産状，鉱物学的および岩石学的性質，全岩組成，年代について研究を行った．Zhamashi貫入岩体は，超苦鉄質岩，ガブロ，ドレライトからなり，おおよそ同心円状の累帯構造をなす．超苦鉄質岩は層状沈積岩で，ダナイトからウェールライト，かんらん石単斜輝岩を経て，単斜輝岩へと連続的に変化する．ガブロとドレライトもまた，層状あるいは塊状の沈積岩で，ノーライト質ガブロからホルンブレンドガブロを経て閃緑岩へと連続的に変化する．超苦鉄質岩と隣接するガブロは，岩相的，構造的に不連続である．両者の境界面は，急勾配かつ明瞭で，破砕されている．接触変成帯は，Zhamashi貫入岩体と周囲の岩石の間で良く発達している．貫入岩体の同心円状の累帯構造と大陸地殻への貫入は，Zhamashi貫入岩体がアラスカ型であることを示す二つの主要な証拠である．クロムスピネルと単斜輝石の化学組成，（$Na_2O+K_2O$）－FeO－MgO（AFM）図における全岩化学組成の変化のトレンドも，アラスカ型であることを支持している．ジルコンのSHRIMP年代から推定されるZhamashi貫入岩体の年代は，513.0±4.5Maである．Zhamashi貫入岩体の本源マグマは，マントルかんらん岩の部分溶融によって生じた未分化マグマに組成的に近い．島弧性の環境の中で，その本源マグマが，低圧かつ水に富んだ条件下での分別結晶作用によって分化し，全ての主要岩種が形成された．Zhamashi貫入岩体の同心円状の累帯構造は，層状岩体の形成とそれに続くダイアピリックな再迸入の２つのステージを経て形成された．アラスカ型貫入岩体の産状は，Qilian Block北縁の活動的大陸縁とカンブリア紀の島弧性火成作用を示唆している．

Key words: Alaskan-type, arc magmatism, Cambrian, mafic-ultramafic intrusion, North Qilian Mountains, Qilian Block

## 学会オリジナルフィールドノート 新しくなりました！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

## 支部コーナー

### ☆北海道支部 案内

#### 北海道地質百選シンポジウム「北海道の地質　魅力発見！」

日本地質学会北海道支部では，北海道地質百選候補の募集と公開を行っています（http://www.geosites-hokkaido.org/）．

このシンポジウムでは，さまざまな分野の専門家や立場から，おすすめの，隠れた，重要な，知られざるジオサイトの紹介とその保護・活用について語っていただき，北海道地質百選を充実・発展させたいと思います．ふるってご参加ください．

日時：2009年10月17日（土）13：00～17：30（13：00開場）
会場：かでる２・７（札幌市中央区北２条西７丁目）入場無料

プログラム（予定）
第１部（13：30～15：00）
開会：ナビゲーター
　中川　充（産総研・地質調査総合センター）
13：30～13：35
　開会の挨拶　宮坂省吾（日本地質学会北海道支部支部長）
13：35～13：40
　講演者紹介　中川　充（産総研・地質調査総合センター）
13：40～14：30
　基調講演：日本の地質百選と北海道地質の重要性
　佃　栄吉（産総研・地質調査総合センター，日本地質学会副会長）
第２部（14：40～17：30）
14：40～14：50　北海道地質百選の概要
　中川　充（産総研・地質調査総合センター）
14：50～16：00
　北海道のジオサイト紹介：北海道の地質　魅力発見！（各10分）講演者（順不同）
　・松枝大治　（北海道大学）
　・新井田清信（北海道大学）
　・川村信人　（北海道大学）
　・高橋浩晃　（北海道大学）
　・吉本充宏　（北海道大学）
　・田近　淳　（北海道立地質研究所）
　・鈴木隆広　（北海道立地質研究所）
16：10～17：10
　北海道のジオサイト紹介：北海道の地質　魅力発見！（各10分）
　・古沢　仁　（札幌市博物館活動センター）
　・篠原　暁　（沼田町化石館）
　・栗原憲一　（三笠市立博物館）
　・七山　太　（産総研・地質調査総合センター）
　・加藤孝幸　（アースサイエンス（株））
　・金　秀俊　（（株）ドーコン）
17：10～17：25　総合討論
17：25～17：30
　閉会の挨拶　石井正之（北海道地質百選検討グループ代表）

## CALENDAR

**2009.10～**

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

### 2009年

#### 10月　October

**○日本火山学会2009年度秋季大会**
10月10日（土）～12日（月・祝）
場所：神奈川県立生命の星・地球博物館
http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/

**☆北海道支部：地質百選シンポジウム**
10月17日（土）
会場：かでる２・７（札幌市中央区）
http://www.geosociety.jp/

**○日本地下水学会2009年秋季講演会**
10月15日（木）～17日（土）
シンポジウム「北海道の地下水資源をどう活かしどう衛るか」
会場：かでる２・７（札幌市中央区）
http://homepage3.nifty.com/jagh/

**○日本地震学会2009年秋季大会**
日時：10月21日（水）～23日（金）
場所：京都大学吉田キャンパス
http://www.zisin.or.jp/meeting/2009/

**○平成21年度日本応用地質学会研究発表会**
10月22日（木），23日（金）
会場：山形テルサ
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

**○平成21年度日本応用地質学会研究発表会**
10月22日（木）～23日（金）
場所：山形テルサ（山形市双葉町1-2-3）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

**○日本地理学会2009年度秋季学術大会**
10月24日（土）～25日（日）（26日：巡検）
場所：琉球大学
http://www.ajg.or.jp/

#### 11月　November

**○日本活断層学会2009年度秋季学術大会**
11月７日（土）～８日（日）
場所：東洋大学
http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/jsafr/index.html

**○平成21年自然史学会連合講演会**
「未来に残したい日本海域の自然史遺産」
11月７日（土），８日（日）
会場：石川県立自然史資料館
問いあわせ：TEL　076-229-3450

**○第26回東海地震防災セミナー2009のお知らせ**
11月11日（水）13：30－16：00
会場：静岡商工会議所会館５階ホール（JR静岡駅北口西側）
連絡先：土　隆一（Tel.:054-238-3240）

**○第25回ゼオライト研究発表会**
11月25日（水）～11月26日（木）
会場：西日本総合展示場新館展示場（北九州市小倉）
http://www.jaz-online.org/

#### 12月　December

**○IGCP507第４回シンポジウム**
「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較」
12月１日（火）～６日（日）
会場：熊本大学大学院自然科学研究科
http://igcp507.kopri.re.kr.

**○第19回環境地質学シンポジウム**
12月４日（金）～５日（土）
場所：早稲田大学西早稲田キャンパス
発表申込期日：2009年10月16日（必着）
http://www.jspmug.org/index_j.html

## 熱の勉強会2009　参加報告

高知大学大学院理学研究科博士課程３年
正木　裕香

今年３月16日から３日間にわたって，箱根にて「熱の勉強会」が開催された．これは海洋研究開発機構（JAMSTEC）・川田佳史氏の企画により，全国各地から“海底の熱流量”の研究者７名が参加したもので，ごく小さなコミュニティとはいえ，日本の海底の熱構造の解明に携わる者同士の稀有な集まりだった．

そもそも“海底の熱流量”の研究と聞いて，その具体的な内容をイメージできる方はどのくらいいらっしゃるだろう？　地球物理学の諸学会で出会う研究者のみなさんと意見交換しても，およそこの分野の重要性への認識が不足しているように思われる．それはもちろん，これまで私たちの理解や説明が不十分だったのが原因であり，ほかならぬ自分自身でさえ大学４年から博士３年の現在まで研究に取り組んできて，その意義を何度も見失いかけたり，研究者としての立ち位置に迷ったり……と試行錯誤の日々だった．それだけに，今回の勉強会に参加できたことは，目の前の視野がいっぺんに広がるような大きな体験だった．

初日の研究会では自己紹介に続き，若手から順次研究発表を行っていく．先頭に立った私は，海底の熱流量観測をとおして熱水循環系様式の解明を研究の目的としている．ターゲットは，伊豆・小笠原弧火山フロントに位置する「水曜海山」と，沖縄トラフ中軸部で発達中の「伊平屋北熱水域」．微細な海底下の熱構造を推定するためには集中観測が重要となるが，とくに「伊平屋北熱水域」は統合国際深海掘削計画（IODP）による掘削提案がされて現在注目を浴びているエリアだ．私はこれまで実施した集中観測の結果と，その計算にもとづく研究成果を発表しつつ，ときには手厳しいほどの質疑やアドバイスをいただけたことが今後に向けての豊かな糧となった．

一方で，先輩の発表からは“海底の熱流量”研究の第一線の状況を知らされた．なかでも私の興味を惹いたのは，海底熱水系のモデル計算だ．基礎からわかりやすい解説がされ，参加者各自が実際にモデル計算に用いているソフトの情報を交換したことで，これから自分の研究を効率的に進めるのにも役立つだろう．そのほか，昨年熊野海盆で地球深部探査船「ちきゅう」による掘削が行われた結果から新たな知見が得られた．その他に，日本海溝で高熱流量異常が観測されたことや，また，地球規模での熱収支の問題をめぐって世界中で行われている議論の様子などなど，とうてい限られた時間では消化しきれないほどのおびただしい最新の知見に触れることができた．日が暮れてお酒が入るとともに勉強会はさらに熱気を帯びて深夜にまでおよび，同じ分野を研究する者同士の交流の醍醐味を満喫した．やがて，私は火照ったからだを露天風呂に沈めて星空を見上げながら，ここに辿り着くまで自分の過ごしてきた研究生活がなんだかあっという間だったような感慨に囚われていた．

翌日は昼過ぎ，青天の下を「桃源台」から雄大な富士山を真正面にして「大涌谷」まで歩く．頂上付近に近づくにつれて硫化水素の臭いが立ち込め，あちらこちらで噴煙が上がり，地中から沸騰した泥がボコボコと噴き出している．私は額の汗を拭いつつ，ふだん海底で接している熱水系が陸上ではまるで違った光景を見せることに改めて驚嘆し，目を凝らし，耳を澄ませ，鼻孔を広げ，五感を総動員してその不思議さを確かめた．船上では，採取した海底表層の柱状コア試料に硫化水素臭などがあっても，こうして地球の体臭や胎動を生々しく体感することはできないだけに…….

最終日の帰りのバスのなかで，この３日間を振り返る．結局のところ，いまだ先の見えない自分の研究への疑問や迷いが完全に吹っ切れたわけではない．むしろ，つぎつぎと新たな課題が立ち現れて，さらに目の前の霧が濃くなったといえるだろう．刺激．私が今回の勉強会で手に入れたいちばん大切なものはこれかもしれない．同じ分野で同じように迷いながら研究に立ち向かっている先輩や仲間との交流が，ふたたび私の背中を明日へと押し出してくれる刺激となった．そして，もっと仕事を積み重ねて，“海底の熱流量”の研究の意義を広く大勢の人々に伝えていけるように努力したいとの思いも心に刻んでくれた，それは刺激だったのである．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

| | |
|---|---|
| b.honda@ruri.waseda.jp | 本田豊也（早稲田大） |
| duketogo13@hiroshima-u.ac.jp | 東郷徹宏（広島大） |
| k1799462@kadai.jp | 中谷大輔（鹿児島大） |
| miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp | 宮川歩夢（京都大） |

## 日本地質学会会員名簿作成アンケートの実施について

日本地質学会では，学会員相互の交流と親睦を図る目的で，2年ごとに会員名簿を発行することを会則にうたっております．2009年はその発行年にあたり，本年12月末日発行の予定で準備を行っております．

名簿の発行様式は前回と同様で，全会員を収録します．本会としては，個人情報保護法の制約はあるとしても，会員の皆様が上記の目的に沿って利用できるような，従来規模の名簿を作成したいと考えておりますので，調査の実施にご理解とご協力をお願いいたします．

また，名簿作成時の会員以外は配布対象とはせず，会員も含めて発行後の販売は一切行わないことはこれまでどおりです．

名簿作成までの手続きを次のように行います．

**1．①「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更･登録カード」を提出していただく，もしくは，②学会ホームページから「会員のページ」へログインし，ご自身の情報を訂正・変更してください．**

**①名簿掲載アンケートを提出する場合**：本アンケートは名簿掲載に関する確認も兼ねています．訂正，変更の有無に関わらず，名簿掲載選択項目について**掲載を拒否する項目**がありましたら，必ずアンケートの書き方の指示に従って掲載拒否の意思をお示し下さい（アンケートの書き方の詳細は後段を参照）．

**②Web画面上から更新する場合**：「会員のページ」へログイン後，ユーザメニューの「アカウント情報」画面でご自身の情報を確認し，「プロフィールの編集」にて会員情報の訂正・変更をして下さい．編集画面下側に会員名簿（冊子）への掲載について確認する項目がありますので，**掲載を拒否する項目には『□非掲載』にチェック（✓）をつけて下さい．**チェックのついていない項目は掲載承諾いただいたものとします．

①，②いずれの場合でも，掲載を拒否する項目がある方は必ず意思表示してください．チェックのついていない項目については掲載承諾いただいたものとします．なお，アンケートの返送のない会員（Web画面上で更新のない会員）については前回の名簿作成時と同様に「推定承諾」とみなし，2007年版会員名簿に掲載されている項目に準じて掲載いたします．

**2．アンケート提出およびWeb画面更新締切日：2009年11月6日（金）**

2009年9月
運営財政部会会員担当　向山　栄

---

## 「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」記載について

本アンケート用紙（本誌別掲）は，基本的にWeb画面上で更新しない方に提出していただきます．アンケートには，会員として登録されている（登録できる）基本項目を，すべて挙げてあります．各項目の内容について訂正や変更がある場合には記入してお出しください．なお，会員名簿にはこれらの項目のうち，下記の名簿掲載項目(必須,選択)を載せます．選択項目については，個人の希望によりますので，選択項目について**掲載を拒否する項目がある場合には，該当する項目の□欄にチェック（✓）を入れ，**掲載拒否の意思をお示し下さい．チェックのついていない項目は掲載承諾いただいたものとします．

なお，アンケートの返送のない会員については「推定承諾」とみなします．

**1．名簿に掲載できる項目**：※氏名（ふりがなつき），出身校，卒年，※所属先，所属部課名，所属先電話，FAX番号，連絡先住所＝自宅住所または所属先住所，自宅の場合は自宅の電話，FAX番号，メールアドレス（所属先または個人のどちらか一方）

**2．名簿に必ず掲載する項目**：上記の※印つき項目，氏名，所属(ない場合は掲載しない)

**3．名簿掲載を選択できる項目**：上記の※印のない項目すべて

**4．選択項目のうち掲載を拒否する項目がある場合：選択項目の□欄にチェック（✓）を入れてください．**✓印がない項目は掲載承諾いただけたものとします．

**5．名簿に掲載されない項目**：会員番号，生年月日，興味専門分野，専門部会

**6．掲載様式例**

| 氏　名 | 出身校 | 卒業年 | 勤務先 | | 〒 | 連絡先住所<e-mail> |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地質（チシツ）　学（マナブ） | 地質大環境 | 71 | 地質調査（株）地質部 | T 03-5823-1150<br>F 03-5823-1156 | 101-0032 | 東京都千代田区岩本町2-8-15<br><main@geososiety.jp> |

# ＜会員名簿の訂正・変更・登録についてのお願い＞

◎誤記・変更・追加などありましたら，楷書ではっきりと，アパート・下宿等は忘れずに書いてください．団地名など省略できる場合は省略形でお願いいたします．会員番号は雑誌の宛名ラベル左下の7桁の数字です．

◎名簿に必ず掲載する項目は※印つきの項目(氏名、所属〔ない場合は掲載しない〕)です．

◎名簿掲載を選択できる項目は※印のない項目全部についてです．

**名簿への掲載を拒否する項目がある場合には，選択項目の □ 欄にチェック（✓）を付けてください．**

◎基本的には郵便物の受け取り先が名簿に掲載される住所です．受け取り先が勤務先のかたはできるだけ，郵便物が確実に届く範囲（部課名）までご記入願います．受け取り先を変更する場合は，欄外の受取先のいずれかに〇をつけてください．

日本地質学会事務局　御中

FAX：03-5823-1156

E-mail ： main@geosociety.jp

※印の項目(氏名、所属)は掲載必須項目です．**掲載を拒否する選択項目には □ に チェック（✓）をつけて下さい．**

| 会員番号 | （　　年　　月　　日届） |
|---|---|
| | **名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更・登録カード** |
| ローマ字表記 | |
| ※　氏　　名 | 生年月日　19　　年　　月　　日生 |
| **出身校** | 最終学歴について掲載を**拒否する場合**には左側の項目「□ **最終学歴」にチェックを**，在学中のかたは，所属先の身分(学生・院生・研究生等)について**掲載を拒否する場合**には「□ **所属先の身分」にもチェック**を付けてください． |
| □ 最終学歴<br>□ 所属先の身分 | 学校　　年　月　卒・在学<br>大学　　学部　　年　月　卒・在学<br>大学　　研究科　修士課程 ・博士課程　　年　月　修・在学<br>大学　　研究生・その他（　　） |
| ※　**所属先**<br>所属先部課名まで記入 | |
| □ 所属先部課名 | **所属先は郵便物が確実に届く範囲（部課名）までをご記入下さい**(掲載の可否に関わらず)．<br>所属先部課名について掲載拒否を希望する場合には左側の□にチェックを付けてください． |
| □ 所属先住所 | 〒 |
| □ 所属先電話・FAX | 代表 ・ ダイヤルイン<br>TEL　　－　　－　　．FAX　　－　　－ |
| □ 自宅住所 | 〒 |
| □ 自宅電話・FAX | TEL　　－　　－　　．FAX　　－　　－ |
| □ E-mail Address | 自宅・所属先のどちらかを登録． |

郵便物の受け取り先（いずれかに〇）　**自宅　・　所属先**

**＜＜専門部会と興味専門分野について＞＞**（該当する項目に○印を付けて下さい）

◆　**専門部会への登録をお願いします．所属希望の部会を３つまで選択することができます．**

1．地域地質　2．層序　3．堆積地質　4．現行地質過程　5．海洋地質　6．構造地質　7．岩石
8．火山　9．応用地質　10．環境地質　11．情報地質　12．古生物　13．第四紀地質

◆　**あなたの興味専門分野を教えてください．３つまで選択することができます．**

1．層位　2．堆積・堆積岩　3．古生物　4．構造地質　5．火山・火山岩　6．深成岩　7．変成岩　8．鉱床地質(金属・非金属)
9．鉱床　10．鉱物　11．燃料地質　12．地熱　13．第四紀　14．環境地質　15．都市地質　16．土木地質　17．土質工学
18．水文地質　19．探査地質　20．土木工学　21．情報地質　22．地震地質　23．海洋地質　24．地球物理　25．地球化学
26．地質年代学　27．地理　28．地学教育　29．考古　30．その他　40．地球惑星

# 学　会　記　事

任意団体日本地質学会の議事録を掲載しています．

## （任）日本地質学会2009年度 第３回理事会議事録

2009年８月21日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年8月10日（月）
13：00～15：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　倉本　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：小嶋　石渡　岩森
＊成立員数（12/17）に対し，出席者14名，委任状3名，欠席者　0名で，理事会は成立.
＊前回議事録の承認

**○報　告**

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
報告事項
・日産科学振興財団より，日産科学賞の候補者推薦募集（応募期間8/1-9/15）→News，HPに掲載済
・大学女性協会「守田科学研究奨励賞」候補者募集（応募締切11/30）→News，HPに掲載済.
・学術振興会より，アジア留日経験研究者データベースの運用開始についての周知とデータベースへの登録案内→News，HPに掲載済
・地質地盤情報協議会，GUPI，全地連の３団体連名での，地質地盤情報に関するアンケートについては，運営財政部会で回答する.

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者６名（正２，正院割２，準２）
（正）上栗伸一　飯泉克典　（院割）　山本阿子　三浦　悟　（準）伊藤圭太　本多剛
２）退会者４名（正４）
（正）石本詔久　兼田　心　小森長生　山本勝也
３）７月末日会員数
賛助30，名誉75，正4215（うち院　208），準30，合計4350（前年同期比　－104）
会計関係（担当理事-向山）
・フォトコンテストの宣伝費などは事業関連経費として支出

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・フォトコンテストの広報に関して，名古屋市の創和広告㈱から新聞広告掲載の飛び込み営業があった．新聞の都合で，８月10日版の１ページを特価（10万円）で提供できるとのことであった．理事会および共催団体のIYPE日本で検討の結果，掲載することとした．媒体：サンケイ新聞（東海・北陸・九州版）約８万部

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・岡山大会については，現地中心に順調に準備は進んでいる.

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
今月の編集状況は以下の通り（８月７日現在）
115-08月号：論説３　短報２　報告１（60ページ・校正中）
115-09月号：特集号「プレート沈み込み帯と地震（世話人：廣野哲朗ほか）」（85ページ・入稿準備中）
・2009年度投稿論文　総数38編［論説19（和文19），総説３（和文３）短報13（和文12　英文１），ノート２（和文２）報告１（和文１）］口絵６（英文３・和文３）.
投稿数昨年比　―56（注：2008年は，８月までに６件の特集号投稿があり，投稿数が大幅に増加した）査読中59編．受理済み26編（うち通常号８　特集号18）.
・９月号掲載分より，新規則適用開始．著者に引用文献欄・図表キャプションの英文科について，各著者に随時連絡・修正依頼を行っている．ニュース誌７および８月号で引き続き広報中.
・トムソン社への英文レターを業者に添削依頼中．（見積金額￥7,875）
・新規則を翻訳を業者に翻訳依頼中（8/10納品予定　見積金額￥181,440）

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・IAR編集状況について
・IARの著作権の管理方針，（CTA）の導入について

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・リーフレット企画提案書案，原稿提出書案，査読用紙，著作権譲渡同意書案等の作成

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
特になし

５．各委員会等
ジオパーク支援委員会（委員長-天野）
・岡山大会のワークショップ，日本ジオパークネットワークより共催承諾．当ワークショップでは，準備中や考慮中の地域からの個別相談コーナーを設ける.
・ポスター校正刷りの確認，刷り上がりは月末を予定．８月下旬の世界ジオパーク委員会の決定も反映させる.

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
・8/9開催の法務委員会の内容を説明

名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）
・名誉会員の位置づけや基準になどについて，12月の評議員会で議論できるよう推薦委員会で方向性を検討

６．NPO地学オリンピック日本委員会（久田）
・９月14日より台湾大会が開催され，11名の代表団（名誉団長：上田誠也，学生4名）を派遣
・2012年の日本開催の準備を行うことを委員会として決定

７．日本学術会議（佃）
・第四紀問題　８月22日にIUGS分科会INQUA分科会と今年度中にシンポジウムを開催し，学術会議としてのメッセージを出す予定→　地質学会の検討と連携させるようにする.
・IUGS E-Bulletin Episodeの編集長が中国からインドに移った．第四紀問題の記事も掲載.

**○審議事項**

１．IARの著作権の管理方針，Copyright Transfer Agreement（CTA）の導入について
査読前版の著者による使用は認められるが，出版社が関与した査読済み採択版や査読済み版，最終印刷版などの使用については，機関レポジトリへの掲載などができないなどの制限がかかるようになる．近年の流れであり，承諾.

２．リーフレット関連，書類案について
・大筋で原案を了承．企画出版委員会が，地質学雑誌でいえば編集委員会的な性格を持ち，査読などに責任を持つ．企画出版委員は，高橋（正樹）会員（委員長）のほか，竹之内会員，植木会員，高清水会員を予定．古生物分野などで若干の補充予定.
・新しい企画として清川会員より地質年代表の作成が提案された．→坂口理事と清川会員を中心に具体案を検討.
・IUGSのInternational stratigraphic chartを和訳し，学会ウェブサイトに掲載する

よう国際地質年表を和訳してHPに掲載するよう地層名委員会に依頼（担当井龍理事）

3．小澤賞，柵山賞の表彰文について
文案を決定．

4．IYPEの最終イベントである惑星地球リスボン式典2009への派遣学生推薦の件
・8月10日までに派遣学生の応募はなかったために新潟大学+早稲田大学で候補者の推薦を検討，調整する．

5．第四紀境界問題について
・「状況の把握と国内外の諸機関等との協議を行い学会員に広報すると共に，日本地質学会としての対応方針の検討案を作成する」といった内容のお願いを，地層名委員会天野委員長に理事会より諮問する．
・答申の概要（中間報告）を12月の評議員会にご説明いただく．対応方針検討案の提出を本年度末とする．なお，学会内の協議において，関連する各専門部会，研究委員会等を含めることとする．
・理事会の対応は井龍理事とする．
・学術会議とも連携する．
・地質学雑誌やIsland Arcにおいては，当面，著者によって新旧どちらの基準に従うかを明記するようにする．編集後記でこの取り扱いについて知らせる．

6．その他
・資源地質学会から申し出のあった花崗岩巡検のDVDの岡山大会での販売は，従来の書籍などの委託販売に準じて行う．

以上

## 一般社団法人 日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

## （一社）日本地質学会2009年度 第3回執行理事会議事録

期　日：2009年8月10日（月）
15：30〜18：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　倉本　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：石渡　岩森　小嶋
＊成立員数（9/17）に対し，出席者14名で，執行理事会は成立．

＊前回議事録の承認

**○報告事項**
1．第1回選挙管理委員会を7月15日に開催．選挙管理委員長は，互選により松田達生会員が選ばれた．9月号に選挙の告示を行うことを決め，告示原稿案を作成した．
2．第35回リモートセンシングシンポジウム（11/5-6，日大文理学部）の協賛依頼について承諾．
3．新潟大学理学部より「糸魚川ジオパーク展」（9/1-11/29，新潟大学旭町学術資料展示館）の後援依頼について承諾．
4．21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会より「第10回子供のためのジオカーニバル」の後援依頼について承諾．

**○審議事項**
**1．代議員，役員選挙の告示原稿案等について**
・文案を了承し，9月の法人理事会での承認を経て正式に会員に告示する．
・8月のニュース誌で選挙の予告を行う．
2．法人における中期的事業計画の検討
・公益認定の方針について9月の法人理事会で検討する文章を検討．
・2006年策定の中期ビジョンの問題意識と現状の相違などを議論．9月の法人理事会の説明資料を検討．

この議事録の正確を期するため，次の通り署名する．

2009年8月21日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）　宮下純夫
署名人　理事

**訂正**

7月号（p.23）に掲載させていただきました，加納　隆名誉会員の追悼記事について，校正時に下記の誤りがありましたので，お詫びしここに訂正いたします．
（ニュース誌編集委員会）

右段16行目
（誤）「含花崗岩礁岩の研究」
（正）「含花崗岩礫岩の研究」

右段2段落11行目
（誤）渡辺万次郎賞
（正）渡邉萬次郎賞（日本鉱物科学会のHPを参照）．

右段3段落4行目
（誤）持ち上がっていて頃
（正）持ち上がっていた頃

## 岡山大会での 忘れ物をお預かりしています

・カラビナ
・鍵（ひも付き）

お心当たりの方は，学会事務局まで．
e-mail:main@geosociety.jp
電話:03-5823-1150
（学会事務局）

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

# 日本地質学会編集 **日本地方地質誌** ＜全８巻，函入上製本＞

『日本地方地質誌』刊行委員会　刊行委員長：加藤碩一　副刊行委員長：高橋正樹

## 第４回配本　**６．中国地方**　560 頁，口絵８頁（9 月上旬刊行）

編集委員長：西村祐二郎　　副編集委員長：君波和雄
編集委員：飯泉滋・今岡照喜・岡田昭明・岡村行信・金折裕司・
木村純一・沢田順弘・鈴木茂之・山内靖喜・渡辺　洵

**定価 26,250 円（税込）を会員特別割引価格 22,500 円（税・送料込）**

日本地質学会会員の皆様に，日本地方地質誌を特別割引価格で販売をいたします．お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会「日本地方地質誌」刊行委員会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店

［問い合せ先］　〒162-8707 東京都新宿区新小川町 6-29
株式会社 朝倉書店　編集部：千葉　Tel. 03-3260-1967
［お申し込み］　本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］　書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

---

## 会　員　特　価　申　込　み　書

**Fax No.03-3268-1376**　　朝倉書店編集部　千葉 行

**日本地方地質誌　６．中国地方　　会員特価 22,500 円（定価 26,250 円）　　冊**

**日本地方地質誌　３．関東地方　　会員特価 24,000 円（定価 27,300 円）　　冊**

**日本地方地質誌　４．中部地方　　会員特価 22,500 円（定価 26,250 円）　　冊**

**日本地方地質誌　５．近畿地方　　会員特価 20,500 円（定価 23,100 円）　　冊**

[第５回配本]　　８．九州・沖縄地方　（2010 年春刊行予定）

以下続刊：続刊も刊行次第順次ご案内いたします．１．北海道地方　２．東北地方　７．四国地方

お名前：

ご送付先：〒　　-

ご所属：

tel.　　fax.

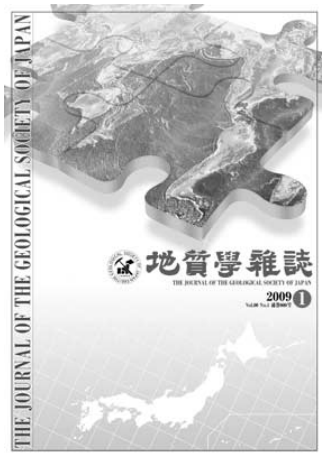
備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．

## 地質学雑誌編集委員会からのお知らせ

これまでもニュース誌等でお知らせして参りました通り，日本地質学会の法人化に伴い，学会諸規則の整備が行われ，その中の一つとして，従来の編集規約，投稿規定などの編集に関わる規則を一本化，内容も一部改訂し，新しい編集規則を作成いたしました．

従来からの大きな変更点は，引用文献リストや図表およびキャプションの英文化です．これは，インパクトファクターの附帯化，国際的な相互引用化をめざすためにも必要不可欠なものです．地質学雑誌の更なる充実・地位向上のため会員の皆様のご協力をお願いいたします．

具体的には，2009年９月１日以降，新規に投稿される投稿原稿全てに新規則が適用されます．また，第115巻９号（2009年９月号）以降の掲載論文に関しても適用となりますので，既にご投稿中の著者にも随時修正をお願いする次第です．新しい編集規則は，学会ホームページまたは地質学雑誌巻末をご参照ください．




2009年６月
地質学雑誌編集委員会

# 文献英文併記と図表・キャプションの英文化をお願いします

## ～編集に関わる規則の一本化および一部改訂にあたって～

### １．図表類およびキャプションの英文化

**＜編集規則 G. 5 -7）より＞**

口絵・図・表・図版中，およびこれらに付帯する説明文（キャプション）は英語とし，活字で印刷されるものは別の原稿用紙に書く．図中の地名などの固有名詞には，必要に応じて英語を付す．日本語の説明文を付加してもよい．

### ２．引用文献の英文併記

引用文献は，編集規則G. 4の表示例にそって作成していただき，英語以外の文献については，下記のようにお願いいたします．

**１）日本語文献の場合**：著者名，雑誌・著書・出版社名のみ日本語・英語併記とし，残りの項目は従来通り（論文の表題は日本語のみ）といたします．

**２）英語以外の外国語文献の場合**：英語以外の文献の著者名，雑誌・著書・出版社名は，オリジナル言語・英語併記とし，訳した部分については，以下のような注をつける．

*English translation from the original written in［ORIGINAL 言語］

**３）英訳が不明確な出版物名や出版社名などの場合**：上記２）同様に「訳」であることを明記すること，および書かれている情報できちんと元論文にたどり着けるよう，また，なるべく表現が統一されるように編集委員会でチェックをすることで対応いたします．

**＜編集規則 G. 4より＞**

例）文　献

加藤武夫（Kato, T.），1920，黒鉱鉱床に就て．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**27**, 301-309.

加藤武夫・杉　健一（Kato, T. and Sugi, K.），1927，日本西南部外帯の推し被せ構造（Deckenstruktur）（予報）．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**34**, 249-252.

活断層研究会編（The Research Group for Active Faults, ed.），1991，新編日本の活断層－分布図と資料－［*Active Faults in Japan, New Edition - distribution map and the related materials-*］*．東京大学出版会（Univ. Tokyo Press），363p.

小池　清（Koike, K.），1957，南関東の構造発達史．地球科学（*Earth Sci.*），**34**, 1-16.

Mitchum, Jr., R.M., 1977, Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11: Glossary of terms used in seismic stratigraphy. *In* Payton, C.E., ed., Seismic Stratigraphy-application to hydrocarbon exploitation, Mem. Amer. Assoc. Petrol. Geol., **26**, 205-212.

小川琢治（Ogawa, T.），1944，日本群島［*The Japanese Archipelago*］*．弘文堂（Koubundo Press），372p.

Oishi, S., 1940, The Mesozoic floras of *Japan. Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Sec. 4,* **5**, 123-480.

大塚彌之助（Otuka, Y.），1938a，新生界対比に於ける軟体動物化石の価値．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**45**, 302-315.

大塚彌之助（Otuka, Y.），1938b，南部フォッサ・マグナ地質構造上の一特性．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**45**, 528-529.

Reading, H.G., ed., 1986, *Sedimentary Environments and Facies, 2nd*. Blackwell Sci. Publ., Oxford, 615p.

Schuchert, C. and Longwell, C.B., 1932, Paleozoic deformations of the Hudson Valley region, New York. *Amer. Jour. Sci.,* **23**, 305-326.

竹内　誠・河合政岐・野田　篤・杉本憲彦・横田秀晴・小嶋智・大野研也・丹羽正和・大場穂高（Takeuchi, M., Kawai, M., Noda, A., Sugimoto, N., Yokota, H., Kojima, S., Ohno, K., Niwa, M. and Ohba, H.），2004，飛騨外縁帯白馬岳地域のペルム系白馬岳層の層序および蛇紋岩との関係．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**110**, 715-730.

*English translation from the original written in Japanese

地球科学で持続可能な社会に貢献する

# 第36回 OYO展

## 大地をまもる

●とき
10月14日（水）AM 10：00～PM 7：00
10月15日（木）AM 10：00～PM 5：00

●ところ
秋葉原UDXギャラリー（東京都千代田区外神田4-14-1）

開催内容：展示会、セミナー
※事前申込み不要

入場無料　粗品進呈
※受付時に名刺を2枚ご用意ください

### ■展示会のご案内

- 巨大地震の脅威から人と街を護る
- 地盤と地下水を護る
- 洪水・土砂災害から暮らしを守る
- 社会の安全と安心を守る
- 機器総合案内コーナー

### ■セミナーのご案内

**10月14日（水）**
- こんなに大事な堤防 ― 知られざる堤防の働き ―
- こんな所にも重金属が!? ― 意外と身近な自然由来の重金属問題 ―
- なるほど、こう変わる「土対法」― 改正土壌汚染対策法の解説と対応 ―
- 微生物のちからで地盤と地下水を護る ― OYOが提案する安全・安心なバイオ浄化 ―

**10月15日（木）**
- 首都圏直下地震にそなえて ― 首都圏の地下構造と地震リスク ―
- 災害から企業活動と地域の生活を守る ― DCMという新たな概念 ―
- OYOが視てきた地震被害 ― OYOが調査した地震被害アーカイブス ―

応用地質株式会社
URL http://www.oyo.co.jp/

【お問い合せ先】 応用地質株式会社　〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-6　TEL：03-3234-0811（代）　E-mail：prosight@oyonet.oyo.co.jp
担当：第36回OYO展事務局　佐藤百彦、坂爪康展

※学生・就職関係の方へ　OYO展では、弊社の事業内容をご紹介しておりますので、ご興味のある方は是非ご来場ください。

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp